

公益社団法人日本看護科学学会

平成 26 年度 6 月 定例(定時)社員総会 議事録

日 時 : 平成 26 年(2014 年) 6 月 29 日(日) 11:30~14:00

場 所 : ベルサール神田

東京都千代田区神田美土代町 7 住友不動産神田ビル 3F

総社員数 : 202 名

出席社員数 : 156名(会場70名、委任状86名)

会場出席者 : 社員(代議員)

田村やよひ理事長、安酸史子副理事長

麻原きよみ、萱間真美、グレッグ美鈴、小坂橋喜久代、高橋眞理、宮崎美砂子、

山本あい子、吉沢豊予子、和住淑子

(以上11名、理事)

小島操子

(以上1名、監事)

明石恵子、市江和子、稲葉佳江、植田喜久子、上野栄一、大島弓子、

大西和子、小笠原知枝、岡田洋子、岡谷恵子、奥宮暁子、小田正枝、

片田範子、叶谷由佳、鎌倉やよい、河口てる子、北岡和代、北原悦子、

北村愛子、草間朋子、佐藤富美子、清水嘉子、新道幸恵、末原紀美代、

關戸啓子、高木廣文、高田早苗、田代順子、多田敏子、田中京子、

田中マキ子、谷本真理子、水流聡子、永井優子、中村由美子、成田 伸、

西村真実子、西村ユミ、二宮啓子、任 和子、早川和生、林 千冬、林 優子、

菱沼典子、藤井徹也、二渡玉江、松田たみ子、三上れつ、三国久美、

水野道代、宮腰由紀子、森 明子、矢野正子、山勢博彰、山田 覚、良村貞子、

渡邊順子、渡邊タミ子

(以上 58名)

理事(非代議員) 武田祐子、中山洋子

議 長 : 田村やよひ(理事長)

議事録作成者 : 高橋眞理(総務担当理事)

I. 開会

開会時、会場出席社員数59名(うち理事・監事12名)、有効委任状86名、総計145名であり、全代議員202名の過半数であるため、定款第23条および第24条に定められた要件を満たしており、公益社団法人日本看護科学学会の平成26年度定例(定時)社員総会は成立した。

司会は安酸副理事長、書記は佐居由美(聖路加国際大学)、白石三恵(東京大学)で行なわれた。

II. 理事長挨拶

田村やよひ理事長より、以下の挨拶があった。

梅雨時の日曜にご参集いただき感謝いたします。昨年11月末の社員総会以来、皆様にたくさんのご協力をいただき、半年間の運営をしてまいりました。6月18日に国会にて、医療・介護総合確保推進法が成立しました。この法律の中には、特定行為に係る看護師の研修制度や介護サービスの一部が地方自治体に移行するなど、新たな看護研究の課題が示唆されるものが含まれています。JANSとしては看護研究の成果を基に、より一層、質の高い看護サービス提供の仕組みを提案していければと考えています。

本社員総会では平成25年度の事業報告、決算報告のご承認をいただくことが主な目的ですが、今年度もすでに3ヶ月過ぎておりますので、これまでの取り組みについても報告したいと考えております。また、決算報告との関連で受け取り会費配分率の変更についてもご審議をお願いする予定です。さらに来年春先の代議員選挙、役員候補者選挙に向けて、会員数増加に伴い「代議員選出規程」の地区割りを変更いたしましたので、これについてもご報告します。

なお本日は14時30分より、この会場で第4回JANSセミナーを予定しており、限られた時間ではありますが、活発なご審議、意見交換をお願いいたします。

Ⅲ. 第34回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

鎌倉やよい会長より、以下の挨拶があった。

愛知県立大学の鎌倉でございます。2014年11月29日から30日の2日間、名古屋国際会議場にて第34回学術集会を開催いたします。看護の方法論を体系化することが重要と考え、特別講演として東京大学の真田弘美先生による「看護ケアを科学する方法論の構築－褥瘡ケアの体系化を目指して」を、また人間の行動は環境との相互作用であることから、慶應大学の坂上貴之先生による「行動の原理からみる看護環境のアレンジ」を行ないます。ワークショップでは各分野の研究を発表していただく予定です。

演題応募は912件、English Sessionが25件、交流集会が54演題でした。交流集会のEnglish Sessionへの応募はありませんでした。なお、参加申込については極力、事前登録して頂けますよう、お願いいたします。

Ⅳ. 議長指名および議事録署名人の承認

定款第22条3項に従い、田村理事長が議長に選出された。

会場出席者から議事録署名人を募ったが立候補がなかったため、議長より代議員の叶谷由佳氏(横浜市立大学)と中村由美子氏(青森県立保健大学)の2名が推薦され、満場一致により承認された。

Ⅴ. 報告事項

1. 理事会および社員総会活動状況 <田村理事長>

議案書(pp2-8)に基づき、以下の報告があった。

平成25年度の理事会は、第1回理事会以降、平成26年度3月書面理事会までとなる。平成26年1月書面理事会にて、第33回学術集会の特別講師への謝金を契機に上限額の審議を行ない、10万円から20万円に引き上げた。2月11日の第6回理事会にて、特別講師への謝金超過分(10万円)補填について承認された。また、1月の第3回JANSセミナーの実施報告がされた。3月書面理事会では、JJNS 若手研究者支援事業(英文校閲費用助成)について英文誌編集委員会の提案通り、条件変更が承認された。

平成25年6月の定例社員総会では新しい理事が選任された。12月社員総会では、平成26年度の事業計画案および予算案が承認された。

2. 総務報告 <高橋理事>

議案書(p1)の代議員名簿について、北海道地区において石井トク氏の退会により、岡田洋子氏が就任した旨、説明があった。

議案書(p9)に基づき、以下の報告があった。

前年度末日の正会員数6,713名で平成25年度が開始された。平成25年度の新入会員は再入会を含めて902名、死亡喪失者が3名である。名誉会員12名と合わせて、平成26年3月31日現在の会員数7,629名である。正会員数はこの3年間で約1,500名が増加している。

3. 選挙管理委員会の委嘱 <高橋理事>

議案書(p10)に基づき、以下の報告があった。

平成 26 年度中に代議員選挙および役員候補者選挙が実施されるため、「代議員及び役員候補者選出に関する申し合わせ」に則り、要件を満たす会員から、5 名の選挙管理委員(岡美智代氏、桑名佳代子氏、高木廣文氏、二宮啓子氏、野口眞弓氏 ※50 音順)に委嘱した。

4. 平成25年度事業報告

議案書(pp13-23)に基づき、各担当理事より以下の報告があった。

(1) 第 33 回日本看護科学学会学術集会開催 <高橋理事>

林優子会長のもと、第 33 回学術集会を平成 25 年 12 月 6 日から 7 日の 2 日間、大阪国際会議場にて開催した。メインテーマは「看護の力で社会が変わる」であり、3,658 名の参加者を得た。

(2) 第 34 回・第 35 回日本看護科学学会学術集会準備 <高橋理事>

鎌倉やよい会長のもと、第 34 回学術集会を平成 26 年 11 月 29 日から 30 日の 2 日間、名古屋国際会議場にて開催する。テーマは「看護ケア学の構築を目指す～研究成果を臨床へ」である。

第 35 回学術集会は小山眞理子会長のもと、平成 27 年 12 月 5 日から 6 日の 2 日間、広島国際会議場にて開催予定である。

(3) 和文誌の発行 <萱間理事>

委員会を4回開催した。オンライン投稿についての打ち合わせを行なった。第 33 巻第 2 号、第 3 号、第 4 号を発行したが、年 4 回刊の紙媒体としては、これが最後となる。平成 25 年度の投稿数は 75 編であり、前年度の 65 編から増加している。平成 26 年度は過去 3 ヶ月で 19 件の投稿があった。投稿数増加に対応するため、編集委員を増員した。平成 26 年度末に冊子体論文集を発行するが、今後はオンラインでの随時掲載となり、掲載すべき論文がある時に随時掲載される。第 34 巻は、原著 3 編、研究報告 7 編、その他 1 編が掲載されている。

投稿規程を改定し、要点は次の通りである。(※ 別紙資料参照)

- ・原稿の種類:研究報告をなくし、短報、資料とする。
- ・倫理的配慮:倫理委員会の承認番号を論文中に明記する。
- ・利益相反:倫理委員会からの提案で利益相反についての規程を追加
- ・著者資格:著者資格について明記する。

移行期間を設け 7 月 1 日から実施し、学会ホームページに至急掲載する予定である。原稿の種類も同日から適用する。周囲の会員への投稿を勧めていただきたい。

オンライン化後の別刷り及び冊子体への意向について全会員向けにアンケート調査を行ない、回収率は 6.5%であった。63%が別刷りは必要としたが、冊子体の希望者は 35%と少なかった。なお今後、すべての査読を完全オンラインで行なう。

(4) 英文誌の発行 <グレッグ理事>

編集委員の交代を行ない、編集委員 21 名で新委員会を発足した。委員会を 2 回、委員会小会議を 2 回、ウェブ会議を 2 回、開催した。JJNS の 10 周年記念号に依頼原稿を掲載した。平成 25 年度の論文投稿数は 226 本で、日本人の投稿数はトルコ、イランについて第 3 位であるため、日本人の投稿数を増やす方策を検討した。2013 年 10 月に啓発活動として JJNS セミナー「Improving Your Success at Publishing in English 2013」を開催し、参加者 191 名で好評であった。また、若手研究者支援事業(英文校閲費助成)の詳細を検討した。2013 年の韓国での WANS 学術集会において、投稿促進のためにリーフレットや過去のジャーナル配布を行なった。平成 24 年度のインパクトファクターは 0.583 である。(2013 年 6 月発表)

今年度、大きな変更として投稿規程を変更した。投稿者の会員条件を撤廃し、会員以外の日本人からの投稿を可能とした。以下の理由による。

- ・インターナショナルジャーナルにおいては、通常、投稿者の会員制限は設けられていない。
- ・非会員に対する競争力を向上させる。
- ・日本人の投稿数が第3位の状態が続いており、論文を活用している会員の数が投稿者の200倍に達しており、共同研究者が看護以外でも投稿が可能となることで、質の良い論文が掲載され、会員サービスにつながる。
- ・国内での英文誌への関心が高く、日本人の優れた研究を掲載するため。

投稿規程では、オーサー・メンバーシップの必要条件の箇所のみ変更した。変更後の投稿規程は7月1日より適用される。学会ホームページには7月中旬に掲載予定である。

また、若手研究者支援事業の評価を行なった。募集期間は、2014年4月1日から5月31日まであり、3件の応募があり、審査の結果、2件を採択した。

(5) 看護学学術振興対策

① 看護学学術用語の検討 <小坂橋理事>

作業マニュアルを標準化した。用語検討のための組織案を作成し、維持管理システムの検討を行なった。いくつかの用語で、検討作業の流れについてモデル作業を開始した。過去の成果物について用語再検討の要望があり、検討中である。用語を継続的に見直す作業を行なっている。

② 国際活動の推進(世界看護科学学会を含む) <中山理事>

委員会を2回開催した。異文化看護データベースの見直しを行なったが、活用状況が明確でないため、継続について結論に至っていない。平成26年度中に、国際看護学のデータベースを作成し、グローバルスタンダードの検討、看護系大学博士課程のグローバル化についての調査を予定している。

世界看護科学学会(WANS)は、第3回学術集会が韓国のソウルで開催された。日本人の発表はポスターセッションが多く、口演が少ないのが課題である。他の委員会とも協力できればと考えている。次回の学術集会はドイツのHannoverにて開催される。WANSのホームページについては理事長挨拶をはじめ更新した。

③ 看護倫理の検討と啓発

看護倫理検討委員会 <麻原理事>

委員会を2回開催し、アメリカの大学の看護学部教員2名に研究倫理審査の対象となる研究計画の種類と審査基準、体制についてのインタビューを行なった。それらを分析し、研究倫理指針、研究計画の種類と審査基準について検討した。和文誌編集委員会に、投稿規程に利益相反についての項目を追加するよう依頼した。

研究倫理審査委員会 <田村理事長>

審査すべき事案の申請はなかった。

④ 研究成果の蓄積と活用 <吉沢理事>

委員会を1回開催し、メール会議等を行なった。第2回および第3回JANSセミナーを実施した。一昨年の「若手看護学研究者の研究実施状況に関する調査」の結果を原著論文として投稿した。第33回学術集会にて、「若手の会」のメンバーが交流集会「JANS 若手アカデミーの組織化、未来を創造・想像しよう」を企画し、多数の参加者を得た。

(11) 他機関との連携活動

② 看護系学会等社会保険連合 <吉沢理事>

続けて、議案書(p22)に基づき、以下の報告があった。

社員総会が1回、臨時社員総会が1回開催された。年会費について検討され、一律7万円となった。1団体が脱退し、合計48団体となった。医療技術評価提案書、診療報酬改訂要望書を厚生労働省に提出した。また、合同シンポジウムが開催された。

(6) 学術研究論文の表彰 <宮崎理事>

平成 25 年度表彰論文として、優秀賞 1 編、奨励賞 2 編を選んだ。

今後の表彰論文選考についても委員会で候補論文を絞り込んだ上、代議員へ審査を依頼するが、論文へのアクセシビリティと採点のしやすさを検討する。多くの代議員の皆様へ採点をお願いしたい。

(7) 学会組織の強化・発展

1) 将来構想に基づく新たな事業計画

前理事会の計画に基づき、新たな事業を行なっている旨、説明があった。

若手研究者育成のための新規事業 <田村理事長>

第 33 回学術集会にて「若手アカデミーの組織化」をテーマに交流集会を開催した。盛会であり、活発な交流があった。

学術振興事業検討委員会の設立 <田村理事長>

前理事会で決定し、昨年 5 月に設立した。若手アカデミーの参加者に声をかけ、情報交換のためのメーリングリストを作成した。247 名の若手が登録し、活発な意見交換ができる体制が整った。

学術振興事業の実施(JANS セミナー等) <吉沢理事>

平成 25 年 6 月、この会場(ベルサール神田)にて、第 2 回 JANS セミナー「質的研究方法～高度実践のエビデンスを問う臨床研究」を開催し、参加者 383 名であった。平成 26 年 1 月、AP 浜松町にて、第 3 回 JANS セミナー「質的研究方法～Research Question に適合する研究方法を見極める」を開催し、参加者 244 名であった。

2) 財務基盤安定化に向けての取り組み <田村理事長>

様々な次元での取り組みについて、以下の説明があった。

- ・学会誌の完全電子化 : 和文誌、英文誌とも完全電子化された。
- ・選挙の電子化 : 今後の代議員選挙、役員候補者選挙とも、Web 投票にて実施する。
- ・委員会等の遠隔会議システムの導入 : 平成 24 年度より Web 会議システムを導入した。
- ・受取会費配分率の変更 : 平成 24 年 11 月社員総会にて、受け取り会費配分率の変更(公益目的事業 40%:法人会計 60%)および、会費配分率を定める定款施行細則が改定され、平成 25 年度より適用した。この改定により、収益事業の利益を公益目的事業に振り替えることが可能となった。なお、受け取り会費配分率については、本社員総会でも、後ほど審議いただく予定である。

(8) 社会貢献活動 <武田理事>

第 33 回学術集会にて、市民フォーラム「ほんまかいな！ 笑いの力で健康増進」を企画、実施した。笑いヨガを取り入れた参加型の講演を行ない、200 名近くの参加者を得た。ナース・サイエンス・カフェでは、中高生の参加は少なかったが、アンケートでは満足度の高い評価を得た。なお、平成 26 年度の活動については準備中である。

(9) 広報活動 <酒井理事> ※欠席のため、理事長代読

学術集会企画委員会との連携、社会貢献委員会との連携、WANS 学術集会の広報、広報活動の対象となる媒体の検討、取材マニュアルの整備、学会ホームページの随時更新などを行なった。

(10) 災害看護支援事業(日本看護系学会協議会との共同事業による) <山本理事>

委員会を 2 回、Web 会議を 1 回、実施した。

災害看護支援事業に 12 件の応募があり、うち 4 件を採択。助成総額 160 万円であった。4 件とも

年度内に事業が完了し、報告書が提出された。第 33 回学術集会にて、「災害看護支援助成事業から見える災害看護の課題と方向性」をテーマに交流集会を開催した。また、支援事業の原資確保を目的に「ワンコイン募金」を実施し、304,659 円が集まった。

平成 26 年度助成事業の募集を開始した。平成 26 年度の活動内容にはなるが、19 件の応募があり、うち 8 件を既に採択したことを報告する。

(11) 他機関との連携活動 <安酸副理事長>

① 日本看護系学会協議会

平成 25 年 6 月、日本赤十字看護大学にて総会が開催された。東日本大震災支援事業について各学会への募金の取り組みを依頼した。

科学研究費補助金助成のキーワード意見募集について JANS としての意見を取りまとめ、日本看護系学会協議会へ提出した。

③ 日本学術会議

ニュースメールを随時、役員に提供している。

④ その他の機関

厚生労働省による、診療の補助における特定行為(案)と指定研修における行為群(案)に関する意見募集に対応した。

(12) 理事選挙 <高橋理事>

平成 24 年 12 月 15 日公示、平成 25 年 2 月 7 日～28 日に Web 選挙での投票期間、3 月 1 日開票にて理事候補者選挙が行われた。6 月 23 日、定例社員総会にて理事選任案が承認された。

以上の報告について、会場より質問があった。

[質疑応答]

○英文誌において、投稿者条件を撤廃することだが、投稿料は取らないのか？ 投稿料を取らない英文誌は他にどのくらいあるのか？

→(グレッグ理事)投稿料を取ることは考えていない。オープンアクセスのジャーナルでも全ジャーナルが投稿料を取ってはいない。学会が会費で運営しているジャーナルがどのくらい投稿料を取っているかの情報はなため、調べたい。

○学会誌をオンライン化した場合、図書館との契約などはどうなるのか？

→(萱間理事)和文誌では、掲載後1年以内の論文へアクセスできるのは契約している図書館のみであり、現在、160の図書館と契約している。掲載後1年以降はオープンアクセスとなる。来年からは、発表直後からオープンアクセスとし、図書館との契約も無料にする方向性である。

○完全オンライン化の場合、検索エンジンなどはどうなるのか？ 和文誌が広く一般の方にアクセスされるのが望ましいと考える。

→(萱間理事)医学書院のデータベース「Medical Finder」で検索できるが、JANSの学会誌は課金しないことになっている。文献に広く接してもらう意味でデータベース登載は有効と考える。

→(グレッグ理事)JJNSについては、機関は年間\$406、個人の単独契約でもアクセス可能であり、機関は2,767ヶ所が購読している。なお、Wiley Blackwellとの契約により、英文誌はオープンアクセスにはならない。

○学会誌のオンライン化についてのQ&A(購読システム、データベースの利用、課金の有無等)を設置してほしい。

→(萱間理事)検討する。

○英文誌は、会員はアクセスできるメリットがある。投稿について非会員も投稿が可能だが、会員は投稿料や掲載料についてのメリットがあるとよい。

→(グレッグ理事)投稿料金については今後の課題であり、検討していく。

○投稿数の増加により査読者の負担が増えると考えられる。投稿料を徴収し、謝金に充ててはどうか？

→(グレッグ理事)査読に回すレベルの論文かどうか、編集委員5名が審査(プライマリー・スクリーニング)後、査読者に依頼している。英文誌は専任査読者がいないため、同様の研究をしている研究者

- をオンラインで探して査読を依頼しているが、査読間隔の調整をし、負担の軽減をはかっている。
- イランからの投稿論文が多いが、同国の論文は二重投稿が確認されたり、論文の代筆業者が多い等、問題があり、慎重に審査すべきである。
- (グレッグ理事)英語論文は重複記述をスクリーニングするソフト(iThenticate)を使っている。30%以上の重複については、引用文献であるかどうか確認している。
- オンライン化にともなうコスト削減分を、査読者や編集委員への謝金に回してはどうか？
- (グレッグ理事)英文誌は郵送料がなくなった分を若手研究者支援へと還元している。プライマリ・スクリーニングについては委員の増員で対応している。
- 研究倫理審査委員会での承認番号を本文に記載するのと同様のレベルで、利益相反委員会の承認番号を書くなどが必要ではないか？
- (萱間理事)利益相反委員会は、倫理審査委員会ほど全施設に設置されている訳ではない。よって、現時点では、記載していただくのみとしている。
- (麻原理事)前委員会が調査したところ、利益相反委員会は全看護系大学に設置されていない。そこで、「Nursing Ethics」をはじめ、様々なジャーナルを参考にしながら、今回の和文誌投稿規程の提案をした。
- 著者により「利益相反なし」とされていても、実際には存在する場合もある。今後、検討していただきたい。

VI. 審議事項

1. 平成25年度決算の承認および会計監査の報告 <和住理事>

審議に先立ち、田村理事長より以下の説明がされた。

平成 25 年度決算では第 33 回学術集会による広告販売事業等の収益が多かった。受け取り会費配分率に従って公益目的事業に振り替えることとしたが、全額を振り替えることができず、法人税・都民税、合わせて 82 万円の納税となる見込みとなった。一方、平成 26年度の災害看護支援事業に対して予算を大幅に超える 19 件の応募があり、明らかに助成資金が不足していた。そこで、中村コンサルティングオフィスとも相談し、「特定費用準備資金」という形で、本学会が災害看護支援事業に拠出することにより、収益を公益事業に有効に活用することとした。その結果、納税額は従来通りの均等割りの 7 万円となった。

議案書(pp24-37)に基づき、以下の報告があった。

1) 貸借対照表(p24)

[Ⅰ資産の部 2.固定資産 (2)特定資産]に計上された災害支援準備資金 3,500,000 円は理事長からも説明のあった使途で、平成 26年限定の資金である。平成 25年度の資産合計は 109,176,967 円である。[Ⅱ負債の部 2.流動負債]にある未払法人税等が実質納税額にあたり、前年度と同様の 70,000 円である。負債合計は 23,441,210 円である。[Ⅲ正味財産の部]の基金は 72,926,624 円である。指定正味財産は 1,486,251 円、一般正味財産合計は 11,322,882 円、正味財産合計は 85,735,757 円である。

2) 貸借対照内訳表(p25)

貸借対照表を一定の比率で、公益目的事業会計、収益事業等会計、法人会計に区分して記載している。

3) 正味財産増減計算書(pp26-27)

貸借対照表の[Ⅲ正味財産の部]の、平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日までの期間の計算書である。[Ⅰ一般正味財産増減の部 1.経常増減の部 (1)経常収益]の学術集会収益は 41,798,000 円であり、前年度を上回った。経常収益計は 142,830,785 円で、前年度を上回った。[(2)経常費用]の経常費用計が 122,063,903 円、平成 25 年度の収支にあたる当期経常増減額は 20,766,882 円の黒字であり、前年度の 636,462 円を大幅に上回った。税引前当期一般正味財産増減額は 20,845,850 円である。前年度は 635,195 円であったので、20,210,655 円の増額と

なった。〔Ⅲ基金増減の部〕の基金自体の増額はなく 72,926,624 円であるが、〔Ⅳ正味財産期末残高〕は 85,735,757 円であり、前年度の 65,579,613 円から 20,156,144 円、増額した。正味財産が約 2000 万円、増えたことになる。〔法人税、住民税及び事業税〕の納税額が前年度と同じ 7 万円だが、先に説明した特定費用準備資金を一般正味財産から除外したことによる。

4) 正味財産増減計算書内訳表 (pp28-29)

〔Ⅰ一般正味財産増減の部 1.経常増減の部 (1)経常収益〕の正会員受取会費は「40%:60%」の比率に則り、公益目的事業会計に 30,460,000 円、法人会計に 45,690,000 円を振り分け、内訳表を作成した。〔(2)経常費用〕の当期経常増減額は公益目的事業小計が△7,845,560 円の赤字となったが、一方で〔収益事業等会計 広告販売事業〕の当期経常増減額が 12,139,292 円であった。特定資産の災害支援準備資金に 350 万円を計上したことで、収益事業から公益目的事業に 11,325,941 円を振り替えた。以上により、今年度の課税額の〔法人税、住民税及び事業税〕は 7 万円となった。

5) 財務諸表に対する注記 (pp30-31)

当法人では、公益法人会計基準を採用している。〔2.特定資産の増減額およびその残高〕では、災害支援準備資金 3,500,000 円を正味財産から特定資産に移行した。次の表である〔3.特定資産の財源等の内訳〕では、災害支援準備資金の当期末残高が 3,500,000 円であるが、これが一般正味財産から充当された分である。この資金を平成 26 年限定で災害支援事業助成に活用する。

6) 財産目録 (pp32-33)

説明は省略するが、後でお目通しいただきたい。

7) 平成 25 年度収支計算書 (pp34-36)

〔Ⅰ事業活動収支の部 1.事業活動収入〕のうち、正会員会費収入は 76,150,000 円であった。学術集会収入は大阪開催で参加者が多く、かつ学術集件事務局の努力もあり、57,834,848 円であり、見込みを 1500 万円、上回った。事業活動収入合計は 142,211,079 円、事業活動収支差額は 21,274,861 円と、約 2100 万円の黒字となった。〔Ⅱ投資活動収支の部 2.投資活動支出〕の中に、災害支援準備資金取得積立として 350 万円を計上した。これは先に述べたとおり、平成 26 年限定の災害支援費用に充てるための特定費用準備資金であり、使用目的が指定される。当初は、収益を全額、公益目的事業に振り替えることができず、約 82 万円の納税を見込んでいたが、本資金により課税対象額を抑え、資金を有意義に活用できることとなった。

8) 災害看護支援事業収支報告 (p37)

災害看護支援事業の資金は特定資産として、別枠で財産管理している。平成 25 年度は 4 件を採択して 160 万円の助成をした。平成 26 年度は 19 件の申請があり、学会の災害支援準備資金を足して、8 件に助成を行なった。以上で、平成 25 年度の会計を締めた。

●監査報告 <小島監事>

監査報告書 (p38) に基づき、以下の報告がされた。

事業報告は法令および定款に従い法人の状況を正しく示し、財務諸表は法人の財産および損益の状況を重要な点において適正に示している。

続けて、田村理事長により、牧真之介公認会計士事務所により作成された独立監査人の監査報告書 (pp39-40) について、監査意見が読み上げられた。財務諸表について、独立監査人からも疑義はなかった、ということであった。

以上の報告について、会場より質問があった。

〔質疑応答〕

○収益は、災害支援準備資金の350万円以外に振り替えたものはあるのか？

→ (和住理事) 正味財産増減計算書の〔Ⅰ一般正味財産増減の部 2.経常外増減の部〕の公益目的事業の欄にある他会計振替額11,325,941円に350万円が含まれているが、その他の公益目的事業(学術振興事業、学会誌事業、学術集会事業等)にも使用する。

平成 25 年度決算について、満場一致により承認された。

2. 定款施行細則変更案(会費配分率の変更案)の承認 <田村理事長>

議案書(p41-43)に基づき、以下の報告があった。

平成25年度決算では、平成26年の災害看護支援事業申請の状況が事前に分かったため、収益を公益目的事業に振り替えて、有効に活用できた。しかしながら今後、同様の状況が起きた場合の対応を考えると、今回のような対応ができる場合だけではないことが予測される。そこで、決算見通しに合わせて受け取り会費配分率を理事会で審議し、柔軟に見直せるよう、定款施行細則の変更案を提案したい。会費の入金時期から見て、11月社員総会の承認では平成26年度決算に対する効果が少なくなるため、平成26年4月1日からの改定として、本社員総会の審議事項とした。

概ね3年に1度行なわれる公益法人に対する内閣府の立ち入り検査が行なわれた際、活発に公益事業を行なうためであるなら本変更案は問題がない旨も確認した。平成25年度は学術集会の収益が大きかったが、今年以降の学術集会での収益については未定であり、収入を確定できるわけではない。会費配分率を決算に応じて理事会が裁量することで、適切に運用できると考えている。

以下の変更案が示された

【現行】正会員の会費の40%を公益目的事業に充当し、60%を法人運営管理費用に充てるものとする。

【変更案】正会員の会費の30%以上を公益目的事業に充当し、70%以内を法人運営管理費用に充てるものとし、その配分は事業年度ごとに理事会の決議により定めるものとする。

変更案の文言について、会場より確認があった。

定款施行細則変更案について、満場一致により承認された。

3. 名誉会員の承認 <田村理事長>

議案書(p44)に基づき、以下の報告があった。

名誉会員に関する定款上の規程、および、名誉会員推薦についての理事会申し合わせ事項に則り、中西睦子先生が推薦された。中西先生は、広島大学保健学科教授、神戸市看護大学学長など、複数の大学で看護学科の設立に携わるとともに、本学会の理事、監事、学術集会会長などを歴任され、学会の発展に多大な貢献をされた旨、説明があった。

名誉会員の承認について、満場一致により承認された。

Ⅶ. その他

田村理事長より、以下の説明があった。

2015年1月に行なわれる代議員選挙を見据え、理事会で代議員選出規程の改正をした。第3条の区割りについて、パソコン画面で名簿をスクロールするWeb選挙であることを考慮し、公平性の観点から会員数1,000名を超える地区を以下のように分割した。また地域の分割により、代議員が特定の県には1名もいないという事態を回避できる可能性も期待できる。

・東京を「東京A」と「東京B」の2区分とする。

東京A：千代田区、中央区、港区、台東区、文京区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区、品川区、大田区、島しょ、海外

東京B：渋谷区、目黒区、世田谷区、新宿区、中野区、杉並区、豊島区、板橋区、練馬区、多摩地域

・近畿を「近畿A」と「近畿B」の2区分とする。

近畿A：大阪府、兵庫県

近畿B：滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県

・上記の文言に合わせ、旧・北関東を「関東A」、旧・南関東を「関東B」と、名称のみ変更する。

また、定款の第18条にある規定により、会員30名に対して1名の代議員を選出する旨が確認された。

その他の議案について、会場からの意見が求められたが、特に発言はなかった。

VIII. 閉会

以上をもって、すべての議事が終了したので、平成 26 年度 6 月定例（定時）社員総会が閉会し、議事進行が議長（田村理事長）から司会に戻された。

司会の安酸副理事長より、最終的な会場出席者数70名、有効委任状86名、合計156名である旨が報告された。

この議事録が正確であることを証するため、議長および議事録署名人により以上の議事を認め記名押印する。

平成26年（2014年）7月31日

議 長 田 村 や よ ひ ⑩

議事録署名人 叶 谷 由 佳 ⑩

議事録署名人 中 村 由 美 子 ⑩

⑩

⑩

⑩

公益社団法人日本看護科学学会 平成26年度6月定例社員総会 議案書

日 時 平成 26 年（2014 年）6 月 29 日（日）11:30～14:00（予定）

場 所 ベルサール神田

東京都千代田区神田美土代町7 住友不動産神田ビル3F

TEL:03-5281-3053

【議事次第】

- I. 開会
- II. 理事長挨拶
- III. 第34回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶
- IV. 議長指名および議事録署名人の承認
- V. 報告事項
 1. 理事会および社員総会活動状況
 2. 総務報告
 3. 選挙管理委員会の委嘱
 4. 平成25年度事業報告
 - (1) 第 33 回日本看護科学学会学術集会開催
 - (2) 第 34 回・第 35 回日本看護科学学会学術集会準備
 - (3) 和文誌の発行
 - (4) 英文誌の発行
 - (5) 看護学学術振興対策
 - ① 看護学学術用語の検討
 - ② 国際活動の推進（世界看護科学学会を含む）
 - ③ 看護倫理の検討と啓発
 - ④ 研究成果の蓄積と活用
 - (6) 学術研究論文の表彰
 - (7) 学会組織の強化・発展
 - 1) 将来構想に基づく新たな事業計画
 - ・ 若手研究者育成のための新規事業
 - ・ 学術振興事業検討委員会の設立
 - ・ 学術振興事業の実施（JANS セミナー等）
 - 2) 財務基盤安定化に向けての取り組み
 - ・ 学会誌の電子化準備
 - ・ 選挙の電子化
 - ・ 委員会等の遠隔会議システムの導入
 - ・ 受取会費配分率の変更
 - (8) 社会貢献活動
 - (9) 広報活動
 - (10) 災害看護支援事業（日本看護系学会協議会との共同事業による）
 - (11) 他機関との連携活動
 - ① 日本看護系学会協議会
 - ② 看護系学会等社会保険連合
 - ③ 日本学術会議
 - ④ その他の機関
 - (12) 理事選挙
 5. 平成25年度決算の承認および会計監査の報告
 6. 定款施行細則変更案（会費配分率の変更案）の承認
 7. 名誉会員の承認
- VI. 審議事項
 1. 平成25年度決算の承認および会計監査の報告
 2. 定款施行細則変更案（会費配分率の変更案）の承認
 3. 名誉会員の承認
- VII. その他
- VIII. 閉会

公益社団法人日本看護科学学会 役員・社員

(平成26年5月18日現在)

理事長 田村 やよひ

副理事長 安酸 史子

第34回学術集会会長

鎌倉 やよい

第35回学術集会会長

小山 真理子

第36回学術集会会長

岡谷 恵子

理事：麻原きよみ、萱間 真美、グレッグ美鈴、小板橋喜久代、酒井 郁子、高橋 眞理、
武田 祐子、中山 洋子、宮崎 美砂子、山本 あい子、吉沢豊予子、和住 淑子

監事：小島 操子、近藤 潤子

名誉会員：飯田澄美子、稲岡 文昭、氏家 幸子、薄井 坦子、兼松百合子、小玉香津子、
中島紀恵子、林 滋子、樋口 康子、日野原重明、松野かほる、山崎 智子

賛助会員：(株)医学書院、(株)南江堂、(株)日本看護協会出版会、ヌーヴェルヒロカワ、(株)へるす出版

(以上、五十音順)

社員

【北海道】

稲葉 佳江
岡田 洋子
奥宮 暁子
近藤 潤子
中村 恵子
野川 道子
平 典子
三国 久美
山田 律子
良村 貞子

【東北】

安藤 広子
石井 範子
角濱 春美
叶谷 由佳
上泉 和子
桑名 佳代子
小林 淳子
佐藤 富美子
塩飽 仁
徳永 恵子
中村 由美子
布施 淳子
吉沢 豊予子
リボウィッツよし子

【北関東】

安梅 勅江
牛久保美津子
大塚 眞理子
岡 美智代
川口 孝泰
小板橋喜久代
佐伯 由香
高橋 照子
田村 やよひ

永井 優子

成田 伸

縄 秀志

二渡 玉江

松田 たみ子

水野 道代

森 千鶴

【南関東】

青木 きよ子
石井 邦子
石垣 和子
大島 弓子
大室 律子
岡田 忍
黒田 久美子
近藤 まゆみ
酒井 郁子
佐藤 紀子
佐藤 まゆみ
諏訪 さゆり
高橋 眞理
谷本 真理子
中村 伸枝
野地 有子
三上 れつ
宮崎 美砂子

森 明子

山田 雅子

山本 利江

和住 淑子

【東京】

秋山 正子
麻原 きよみ
有森 直子
井部 俊子
江本 リナ

及川 郁子

数間 恵子

金井 PAK 雅子

萱間 真美

河口 てる子

川村 佐和子

小松 浩子

坂本 すが

佐藤 エキ子

志自岐 康子

高木 廣文

武井 麻子

田代 順子

田中 美恵子

筒井 真優美

水流 聡子

鶴田 恵子

野末 聖香

濱口 恵子

菱沼 典子

福井 トシ子

操 華子

宮本 真巳

山本 則子

【甲信越】

阿保 順子

内田 雅代

小林 康江

清水 嘉子

征矢野あや子

中込 さと子

堀内 ふき

渡辺 タミ子

渡辺 みどり

【北陸】

稲垣 美智子

上野 栄一

川島 和代

北岡 和代

紺家 千津子

西村 真実子

【東海】

明石 恵子

浅野 みどり

安藤 詳子

市江 和子

大津 廣子

大西 和子

片岡 純

勝原 裕美子

鎌倉 やよい

紙屋 克子

小島 操子

小西 美智子

小松 万喜子

奈良間 美保

野口 眞弓

藤井 徹也

藤本 栄子

村本 淳子

百瀬 由美子

渡邊 順子

【近畿】

青山 ヒフミ

荒尾 晴恵

井上 智子

上野 昌江

岡谷 恵子

片田 範子

勝田 仁美

金川 克子

我部山キヨ子

北村 愛子

グレッグ美鈴

黒江 ゆり子

坂下 玲子

末原 紀美代

鈴木 志津枝

高田 早苗

高見沢恵美子

田中 京子

玉木 敦子

田村 恵子

近澤 範子

西村 ユミ

二宮 啓子

任 和子

野並 葉子

早川 和生

林 千冬

林 優子

前原 澄子

牧本 清子

町浦 美智子

山本 あい子

【中国・四国】

畦地 博子

池添 志乃

猪下 光

植田 喜久子

小笠原 知枝

小野 ミツ

國方 弘子

久保田 聡美

新道 幸恵

關戸 啓子

多田 敏子

田中 マキ子

津島 ひろ江

時長 美希

長戸 和子

中野 綾美

野嶋 佐由美

深井 喜代子

宮腰 由紀子

森下 利子

森下 安子

山勢 博彰

山田 覚

【九州・沖縄】

石原 逸子

井上 範江

宇座 美代子

浦田 秀子

奥 祥子

小田 正枝

嘉手苅 英子

川本 利恵子

北原 悦子

金城 祥教

草間 朋子

斉藤 ひさ子

田中 美智子

中尾 久子

鳩野 洋子

東 サトエ

森田 敏子

安酸 史子

矢野 正子

山勢 善江

李 節子

以上、202名
地区別・五十音順

公益社団法人日本看護科学学会 理事会活動状況

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

平成 25 年度第 1 回理事会

日 時：平成 25 年 5 月 12 日(日) 13:00 ～17:10

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 14 名、監事 1 名、第 34 回学術集会会長、第 34 回学術集會事務統括、選挙管理委員長

〈報告事項〉

平成 24 年度第 6 回理事会議事録

〈審議事項〉

1. 第 33 回日本看護科学学会学術集会（JANS33）の準備状況
2. 第 34 回日本看護科学学会学術集会（JANS34）の準備状況
3. 選挙管理委員会からの報告 …平成 25 年選出理事候補者選挙
4. 決算報告および監査報告の承認 （各委員会予算執行状況／2013 年 3 月末現在）
5. 平成 25 年 6 月定例社員総会について
 - 1) 社員総会資料の確認
 - ① 平成 24 年度事業報告の承認
 - ② 平成 24 年度決算の承認
 - ③ 理事選任案の承認
 - 2) 役割分担シナリオの確認
6. 理事会からの報告
 - 1) 第 2 回 JANS セミナー（6 月 23 日）の準備状況
 - 2) 学術振興事業検討委員会／第 1 回委員会報告（5 月 11 日）
 - 3) 内閣府への申請結果（会費配分率変更、事業のカテゴリー変更）
 - 4) 代議員の辞任等による、次点者の繰り上げ就任について
 - 5) 電子投票を反映した選挙規程の修正案
7. 各委員会における事業の進捗状況
 - 1) 総務委員会からの報告
 - 2) 和文誌編集委員会からの報告
 - 3) 英文誌編集委員会からの報告
 - 4) 研究・学術情報委員会からの報告
 - 5) 国際活動推進委員会からの報告
 - 6) 看護学学術用語検討委員会からの報告
 - 7) 看護倫理検討委員会からの報告
 - 8) 社会貢献委員会からの報告
 - 9) 表彰論文選考委員会からの報告
 - 10) 広報委員会からの報告
 - 11) 研究倫理審査委員会からの報告
 - 12) 災害看護支援事業専門委員会からの報告
 - 13) 学術振興事業検討委員会からの報告

14) 他団体との連携について

- ・ 日本看護系学会協議会、日本学術会議、その他
- ・ 看護系学会等社会保険連合（看保連）
- ・ 世界看護科学学会

8. 入会希望者の承認

9. その他

平成 25 年度第 2 回理事会

日 時：平成 25 年 6 月 23 日(日) 9：00 ～10：20

場 所：ベルサール神田（東京都千代田区神田美土代町 7 住友不動産神田ビル 3F）

出席者：理事 11 名、監事 2 名、第 33 回学術集会会長

〈報告事項〉

平成 25 年度第 1 回理事会議事録

〈審議事項〉

1. 第 33 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 第 34 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
3. 社員総会資料と役割分担シナリオの最終確認およびリハーサル
4. 各委員会における事業の進捗状況
5. 入会希望者の承認
6. その他

平成 25 年度臨時理事会

日 時：平成 25 年 6 月 23 日(日) 18：00 ～18：30

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 8 名

〈審議事項〉

理事長(代表理事)、副理事長の選定の件

平成 25 年度臨時理事会

日 時：平成 25 年 7 月 15 日(日) 13：00 ～15：30

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 14 名、監事 2 名

〈審議事項〉

はじめに … 理事長挨拶、 役員自己紹介

1. 今後（2013 年 8 月～2014 年 2 月）の理事会日程
2. 平成 26 年（2014 年）度 6 月定例社員総会の日程
3. 各委員会における委員の承認
4. 第 2 回 JANS セミナーの報告
5. 各委員会からの事業報告
6. 厚生労働省「関係学会を対象とした意見募集」について

7. その他

〈連絡事項〉

1. 事務職員の勤務シフト、仕事の内容
2. Web 会議システムの利用法

平成 25 年度第 3 回理事会

日 時：平成 25 年 9 月 8 日(日) 13:00～16:40

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 12 名、監事 1 名、第 33 回学術集会会長、第 34 回学術集会会長

〈連絡事項〉

- 委員会活動報告および活動計画・予算案の提出（社員総会用）について
- 2013 年 12 月／学術集会開催時期の各会議について
- 事務所利用案内について

〈報告事項〉

平成 25 年度臨時理事会議事録

〈審議事項〉

1. 第 33 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 第 34 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
3. 第 36 回日本看護科学学会学術集会（JANS36）の候補者選出
4. 名誉会員候補の推薦
5. 平成 26 年度 6 月定例社員総会（2014 年 6 月 29 日）と JANS セミナーの同日開催についての検討
6. 入会審査における会員資格基準の改定について
7. 12 月社員総会の議事次第（案）
8. 第 33 回学会総会の議事次第（案）
9. 各委員会における予算執行状況（～8 月）
10. 各委員会における事業の進捗状況
11. 入会希望者の承認
12. その他

平成 25 年度第 4 回理事会

日 時：平成 25 年 11 月 4 日(月) 13:00～16:45

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 13 名(Web 参加 2 名)、監事 1 名、第 33 回学術集会会長、第 34 回学術集会会長

〈報告事項〉

平成 25 年度第 3 回理事会議事録

〈審議事項〉

1. 第 33 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 第 34 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
3. 第 36 回日本看護科学学会学術集会（JANS36）の会長選出
4. 各委員会における平成 26 年度事業計画と予算案

5. 平成 25 年 12 月社員総会について
 - 1) 社員総会資料の確認
 - ① 平成 26 年度事業計画の承認
 - ② 平成 26 年度予算の承認
 - 2) シナリオ確認
6. 第 33 回学会総会の資料とシナリオ確認
7. 平成 25 年度第 3 回 JANS セミナーの準備状況
8. 各委員会における事業の進捗状況
9. 入会希望者の承認
10. その他

〈連絡事項〉

- JANS33 関連出張／出欠・宿泊希望の一覧
- 2013 年 12 月／JANS33 開催時期の各会議について …役員控室の変更

平成 25 年度第 5 回理事会

日 時：平成 25 年 12 月 5 日（木） 14：00 ～16：00

場 所：大阪国際会議場 8 階 805 会議室（大阪府大阪市北区中之島 5-3-51）

出席者：理事 13 名、監事 2 名、第 33 回学術集会会長

〈報告事項〉

平成 25 年度第 4 回理事会議事録

〈審議事項〉

1. 第 33 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 社員総会資料の最終確認
3. 社員総会／役割分担シナリオの最終確認
4. 学会総会資料の最終確認
5. 学会総会／役割分担シナリオの最終確認
6. 第 3 回 JANS セミナーの進捗状況
7. 各委員会における事業の進捗状況
8. 入会希望者の承認
9. その他

書面理事会

日 時：平成 26 年 1 月 8 日（水）

（理事会の決議があったものとみなされた日：平成 26 年 1 月 16 日）

出席者：理事 14 名

〈議案〉

第 33 回学術集会（JANS33）における特別講演講師（料亭 菊乃井主人：村田吉弘氏）への謝金額を『会計に関する申し合わせ』における規程の上限額（20 万円）とすること

平成 25 年度第 6 回理事会

日 時：平成 26 年 2 月 11 日(火) 13：00 ～17：00

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 14 名、監事 2 名、第 33 回学術集会会長、第 34 回学術集会会長、第 34 回学術集會事務統括

〈報告事項〉

平成 25 年度第 5 回理事会 議事録

平成 25 年度 1 月書面理事会 議事録

平成 25 年 12 月社員総会 議事録

第 33 回学会総会 議事録

〈審議事項〉

1. 第 33 回日本看護科学学会学術集会の最終報告
2. 第 34 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
3. 理事会からの報告
 - 1) JANS33 における特別講師への謝金について
 - 2) 学術集会開催に関する申し合わせ改正について
 - 3) JANS セミナー（1 月 25 日）の実施報告
 - 4) 平成 26 年度 理事会の日程調整
4. 各委員会における今年度予算執行状況
5. 各委員会における事業の進捗状況
6. 入会希望者の承認
7. その他

〈連絡事項〉

委員会事業報告および経費支払伝票の提出について（平成 25 年度 6 月定例社員総会の資料として）

書面理事会

日 時：平成 26 年 3 月 10 日(月)

（理事会の決議があったものとみなされた日：平成 26 年 3 月 20 日）

出席者：理事 14 名

＜議案＞

JJNS の若手研究者支援事業（英文校閲費用助成）について、第 6 回理事会（2014 年 2 月 11 日）での報告事項から英文誌編集委員会の提案通り、内容を変更すること

公益社団法人日本看護科学学会 社員総会活動状況

(平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

平成 25 年 6 月社員総会

日 時 平成 25 年 6 月 23 日 (日) 11:30～14:00

場 所 ベルサール神田

東京都千代田区神田美土代町 7 住友不動産神田ビル 3F TEL:03-5281-3053

総社員数: 202 名

出席社員数: 159 名 (うち委任状 91 名)

I. 開会

II. 理事長挨拶

III. 第33回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

V. 報告事項

1. 理事会および社員総会活動状況

2. 総務報告

3. 選挙管理委員会報告

4. 平成24年度事業報告

(1) 第 32 回日本看護科学学会学術集会開催

(2) 第 33 回・第 34 回日本看護科学学会学術集会準備

(3) 和文誌の発行

(4) 英文誌の発行

(5) 看護学学術振興対策

① 看護学学術用語の検討

② 国際活動の推進

③ 看護倫理の検討と啓発

④ 研究成果の蓄積と活用

⑤ JANS セミナー

(6) 学術研究論文の表彰

(7) 学会組織の強化・発展

・将来構想に基づく新たな展開への準備

(8) 社会貢献活動

(9) 広報活動

(10) 災害看護支援事業

(11) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会

② 看護系学会等社会保険連合

③ 日本学術会議

④ 世界看護科学学会

⑤ その他の機関

(12) 理事候補者選挙準備

(13) 30 周年記念事業

VI. 審議事項

1. 平成24年度決算の承認および会計監査の報告

2. 理事選任案の承認

VII. その他

VIII. 閉会

平成 25 年 12 月社員総会

日 時 平成 25 年 12 月 5 日（木）17：30～20：30

場 所 大阪国際会議場 12 階 特別会議場

大阪府大阪市北区中之島 5 丁目 3－51 TEL:06-4803-5555

総社員数：202 名

出席社員数：152 名（うち委任状 88 名）

I. 開会

II. 理事長挨拶

III. 第33回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

V. 報告事項

1. 理事会報告および社員総会報告
2. 総務報告
3. 委員会活動報告
 - 1) 総務委員会
 - 2) 和文誌編集委員会
 - 3) 英文誌編集委員会
 - 4) 研究・学術情報委員会
 - 5) 国際活動推進委員会
 - 6) 看護学学術用語検討委員会
 - 7) 看護倫理検討委員会
 - 8) 社会貢献委員会
 - 9) 表彰論文選考委員会
 - 10) 広報委員会
 - 11) 研究倫理審査委員会
 - 12) 災害看護支援事業専門委員会
 - 13) 学術振興事業検討委員会
 - 14) 他機関との連携活動
 - ① 日本看護系学会協議会
 - ② 看護系学会等社会保険連合
 - ③ 日本学術会議
 - ④ 世界看護科学学会
 - ⑤ その他の機関

VI. 審議事項

1. 平成26年度事業計画案の承認
2. 平成26年度予算案の承認
3. 名誉会員の承認
4. 第36回日本看護科学学会学術集会会長の承認

VII. 閉 会

総務報告

1. 会員推移（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

1) 正会員数増減

(1) 平成25年4月1日正会員数

6,713名＝平成25年3月31日正会員数 7,037名 － 平成25年度資格喪失者 324名
(自主退会 138名、会費未納 186名)

(2) 平成25年度入会者

902名＝新規入会 813名 ＋ 再入会 89名

(3) 平成25年度死亡喪失者 3名

2) 賛助会員増減 なし

3) 名誉会員増減

(1) 平成25年度承認 2名

中島紀恵子 小玉香津子

(2) 平成25年度死亡喪失者 1名

高橋シュン

4) 平成26年3月31日現在 会員数

正会員 7,612

名誉会員 12

山崎智子 松野かほる 氏家幸子 兼松百合子

林滋子 飯田澄美子 日野原重明 稲岡文昭

樋口康子 薄井 坦子 中島紀恵子 小玉香津子

(株)医学書院 (株)へるす出版 (株)南江堂

(株)日本看護協会出版会 ニューヴェルヒロカワ

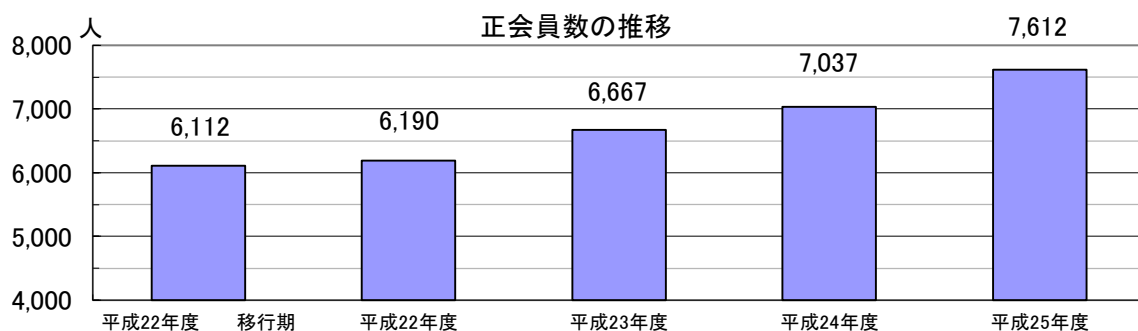
賛助会員 5

会員総数 7,629

2. 地区別正会員数

地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	
北海道 336	北海道	336	北 陸	富 山	52	九州・沖縄	福 岡	385	
		202		石 川	105		佐 賀	39	
東 北 472	青 森 岩 手 宮 城 秋 田 山 形 福 島	129	東 海	福 井	45		798	長 崎	54
		44		静 岡	161			熊 本	72
		135		愛 知	312			大 分	57
		60		岐 阜	105	宮 崎		54	
		60		三 重	158	鹿 児 島		53	
		44			98	沖 縄	84		
北 関 東 581	茨 城 栃 木 群 馬 埼 玉	120	近 畿	京 都	201	宛先不明者		39	
		98		大 阪	488	合 計	7,612		
		125		兵 庫	413				
		238		1306	奈 良	76			
南 関 東 815	千 葉 神 奈 川	329 486		和 歌 山	30	・ 名誉会員 12 ・ 賛助会員 5			
甲 信 越 297	山 梨 長 野 新 潟	84 113 100	中国・四国	鳥 取	33				
				島 根	62				
				岡 山	164				
東 京 1150	東 京 海 外	1133 17		880	広 島				221
			山 口		50				
			徳 島		60				
			香 川		78				
				愛 媛	70				
				高 知	142				

3. 正会員数の推移（年度別）



選挙管理委員の委嘱

岡 美智代	群馬大学
桑名 佳代子	宮城大学
高木 廣文	東邦大学
二宮 啓子	神戸市看護大学
野口 眞弓	日本赤十字豊田看護大学

(50 音順)

公益社団法人日本看護科学学会 平成25年度委員会名簿および分掌事項

委員会	役職	氏 名	会 務 分 掌	委員会開催数
総務	委員長	高 橋 眞 理 和 住 淑 子 藤 井 徹 也	・ 会員管理 ・ 入会審査 ・ 学会事務所の運営（総務会にて検討）	1回 (H25.8/12) 入会審査14回 (H25.4/8-4/9,4/24-4/26, 5/7-5/10,6/3-6/7,6/11-6/14, 6/18-6/19,6/19-6/20,8/19-8/30, 9/3-9/4,10/21-10/25,10/29, 11/26,11/29,H26.2/3-2/10)
	委員	萱 間 眞 美 吉 沢 豊 予 子 浅 野 み どり 和 泉 比 佐 子 牛 久 保 美 津 子 遠 藤 淑 美 大 久 保 暢 子 佐 伯 圭 一 郎 佐 伯 由 香 酒 井 明 子 佐 藤 紀 子 諏 訪 さ ゆ り 竹 崎 久 美 子 田 中 美 智 子 西 川 浩 昭 西 村 真 実 子 野 地 有 子 林 千 冬 子 眞 嶋 朋 子 三 木 明 子 宮 本 有 紀 山 崎 あ け み 吉 田 俊 子 小 野 智 美	・ 会誌の発行（年4号以上） ・ 学会誌への投稿の促進 ・ 査読システムの改良 ・ 論文電子化に伴う著作権の整備□機関リポジトリへの対応） ・ 表彰論文選考への参画 ・ オンラインジャーナルの推進	4回 (H25.4/20,8/6,12/6, H26.3/13) 国際文献社との打合せ 1回 (H25年12月13日)
英文誌編集	編集長	William L. Holzemer	・ 英文誌（オンライン版）の出版（年4号）（2014年から） ・ 英文誌の発行（年2号） ・ オンラインジャーナルの推進（2013年まで） ・ 査読システムの整備 ・ 投稿論文促進のための広報活動 ・ インパクトファクター向上のための活動 ・ 和文誌編集委員会との協働 ・ 表彰論文選考への参画	2回 (H25.10/4,H26.3/1) 小会議 2回 (H25.5/16,12/6) Web会議 2回 (H25.5/10,H26/1/28)
	委員	グレッグ美鈴 山 本 あ い 子 安 部 陽 子 石 原 逸 子 和 泉 成 子 岡 田 彩 子 小 澤 三 枝 子 北 岡 和 代 佐々木美奈子 田 代 順 子 永 田 智 子 中 村 美 鈴 野 口 眞 弓 深 井 喜 代 子 法 橋 尚 宏 堀 内 成 子 前 田 ひ と み 眞 壁 玲 子 丸 山 昭 子 江 藤 宏 美		
研究・学術情報	委員長	吉 沢 豊 予 子 岡 谷 恵 子 柏 木 聖 代 河 野 あ ゆ み 高 見 沢 恵 美 子 奈 良 間 美 保 子 西 村 ユ ミ 深 堀 浩 樹 宮 下 光 令 美 跡 上 富 美	・ 内外の看護学研究に関する情報の収集、整理、発信 ・ 研究成果が診療報酬に適切に反映できるような活動の推進	1回 (H25.8/22) メール会議 1回
	委員	中 山 洋 子 近 藤 暁 子 近 藤 麻 理 子 清 水 安 子 田 代 順 子 南 裕 子 神 原 咲 子	・ 国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築 ・ 世界看護科学学会事務局業務	2回 (H25.9/7,H26.3/29)

委員会	役職	氏 名	会 務 分 掌	委員会開催数
看護学 学術用語 検討	委員長 会 計	小板橋 喜久代 大 森 純 子 大 島 弓 子 柏 木 公 一 佐藤 和佳子 新田 なつ子 山 田 覚 石 丸 美 奈	・看護学学術用語に関する現状と展望の検討 ・看護学学術用語の維持管理システム構築に向けた検討	4回 (H25.9/1、10/26、 H26.1/25、3/15)
看護倫理 検討	委員長 会 計	麻原 きよみ 安 藤 広 子 小 野 美 喜 小 西 恵美子 百瀬 由美子 八 尋 道 子 三 森 寧 子	・研究者のモラル向上に向けた活動 ・看護学研究における倫理審査体制の構築 ・看護学に関連する研究・教育・臨床における倫理的課題の整理 および即時的対応 ・看護学に関連する倫理的社会事象に対する情報収集・提供と、 学会としての対応案の検討	2回 (H25.10/26,H26.3/29)
社会 貢献	委員長 会 計	武 田 祐 子 井 上 智 子 近藤 まゆみ 佐久間 清美 佐々木 綾子※1 福 田 紀 子 宮下美香※2 山村美枝※2 藤 屋 リ カ	・一般市民に向けた活動 ・看護学を通じた社会への貢献およびその方策の検討・普及 ・学術集会開催時の他に社会貢献の実績を残す (市民公開講座、出版等) ・次世代の育成事業 ※1:平成25年度委員。 ※2:平成26年度より就任。	2回 (H25.9/8,12/7)
表彰 論文選考	委員長 会 計	宮崎 美砂子 萱 間 真 美 グレッグ美鈴 上 野 昌 江 大塚 眞理子 神 田 清 子 谷 本 眞理子 本 田 彰 子	・和文誌・英文誌投稿論文からの表彰候補論文選考作業の円滑な運営 ・学会としての表彰論文の推薦 ・看護学への功績（学問の体系化等）のある人への表彰についての 検討 ・他団体からの表彰に該当する候補者の推薦	2回 (H25.8/31,10/25)
広 報	委員長 会 計	酒 井 郁 子 清 水 安 子 林 直 子 藤 田 冬 子 渡辺 かづみ 綿 貫 成 明 黒河内 仙奈	・ホームページ（JANS/WANS）の維持・管理・改善 ・学会活動の広報（委員会成果物のHP掲載等） ・学術集会の広報（プレスリリース等） ・WANS本部・WANS学術集会の広報 ・学術集会の記録	1回 (H26.2/10) メール会議 複数回
研究 倫理 審査	委員長 外部委員 外部委員 外部委員	田村 やよひ 勝原 裕美子 佐 居 由 美 掛 江 直 子 隈 本 邦 彦 岩 野 正 史	・学会員による人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに 行われるかどうかを審査	0回
災害 看護 専門 支援	委員長 会 計	山本 あい子 武 田 祐 子 麻原 きよみ 田中 美恵子 佐々木 吉子 駒 形 朋 子	災害看護活動を支援するために以下の事項について協議及び審議を 行う。 ・募金に関する事項 ・広報に関する事項 ・災害看護支援金の申請者等の選定の審査に関する事項 ・その他必要な事項	2回 (H25.5/10,H26.1/16) Web会議1回 (10月6日)
検学 術振 興事 業	委員長 外部委員	田村 やよひ 安 酸 史 子 吉 沢 豊 予 子 太 田 喜 久 子 西 村 ユ ミ 古 在 豊 樹	・今後の40周年に向けて、公益社団法人としての学術振興の中・ 長期的活動方針を企画検討する。 ・公益社団法人としての社会貢献に向けた公益事業を検討する。 ・アンブレラ学会として看護学の発展への貢献活動を検討する。 (平成25年4月1日より活動開始。2年間の時限的委員会)	2回 (H25.5/11,11/4)
選 挙 管 理	委員長 副委員長 書記 庶務 庶務補佐	太 田 勝 正 小 幡 光 子 武 田 利 明 香 春 知 永 藤 田 佐 和	・理事会からの委嘱により組織し、代議員および役員候補者選挙を行 (平成25年理事候補者選挙終了までの委員)	1回 (H25.4/22)

公益社団法人 日本看護科学学会 平成 25 年度事業報告

[平成 25 年 (2013 年) 4 月 1 日～平成 26 年 (2014 年) 3 月 31 日]

(1) 第 33 回日本看護科学学会学術集会開催

- ・ 第 33 回日本看護科学学会学術集会 (JANS33) を林優子学術集会会長のもと、平成 25 年 12 月 6 日 (金) から 7 日 (土) の 2 日間、大阪国際会議場にて開催した。
- ・ メインテーマは「看護の力で社会が変わる」、参加者総数 3,658 名、演題数 906 題、交流集会 43 題、ランチョンセミナー 7 件、市民フォーラム「ほんまかいな！笑いの力で健康増進」参加者数約 230 名。

(2) 第 34 回・第 35 回日本看護科学学会学術集会準備

- ・ 第 34 回日本看護科学学会学術集会 (JANS34) を鎌倉やよい学術集会会長のもと、平成 26 年 11 月 29 日 (土) から 30 日 (日) の 2 日間、名古屋国際会議場にて開催予定である。メインテーマは「看護ケア学の構築を目指す―研究成果を臨床へ」である。
- ・ 第 35 回日本看護科学学会学術集会 (JANS35) を小山真理子学術集会会長のもと平成 27 年 12 月 5 日 (土) から 6 日 (日) の 2 日間、広島国際会議場にて開催予定である。

(3) 和文誌の発行

- ・ 和文誌編集委員会を 4 回 (平成 25 年 4 月 20 日、平成 25 年 8 月 6 日、平成 25 年 12 月 6 日、平成 26 年 3 月 13 日) 開催した。国際文献社と編集委員会の打ち合わせを平成 25 年 12 月 13 日に行った。
- ・ 日本看護科学会誌第 33 巻第 2 号 (原著 1 編、研究報告 7 編)、33 巻第 3 号 (原著 2 編、研究報告 8 編)、33 巻第 4 号 (原著 1 編、研究報告 5 編、短報 1 編) を発行し、それぞれ会員 7,025 名、7,620 名、7,635 名に頒布した。第 34 巻は (原著 2 編、研究報告 2 編) 公開済。
- ・ 平成 25 年度 (2013 年 4 月～2014 年 3 月) の投稿数は 75 編 (前年度 63 編) であり、編集作業を行った。
- ・ 編集委員会の引き継ぎを行い、投稿数増加に対応するために編集委員の増員をはかった (平成 26 年 4 月現在 24 名、平成 25 年 4 月 19 名)。査読委員の任期満了による交代を行った (平成 26 年 4 月現在 165 名、平成 25 年 4 月 176 名)。
- ・ 和文誌 web 移行スケジュールに則り、平成 25 年 12 月までは年 4 回の冊子発行+年 4 回の電子ジャーナル刊行、平成 26 年 1 月からは電子ジャーナルの随時掲載に移行した (平成 26 年度末に冊子体論文集を 1 回刊行予定)。
- ・ 電子投稿での編集・査読作業を引き続き行い、投稿規程の改訂 (原稿種別を論壇、総説、原著、

資料、短報の 5 種とした)

- ・ 査読プロセスを円滑に進めるため、担当編集委員に対して月 1 回の遅延作業アラートメールを送信することとした。

平成 26 年からのオンラインジャーナル化に伴い、別刷及び冊子体論文集に対する意向を調査した。アンケートの発送は、和文誌郵送時に同封し全会員を対象に行った。回収率は 6.5%で、63%の会員が別刷は必要とし、約 80%の会員が、1 冊 50 円が適正価格と回答した。またオンライン後の冊子体論文の希望は 35%に留まり、65%の会員が不要と答えた。冊子体論文の希望者は、全論文の掲載を希望し、価格は 1 冊 2,000~5,000 円の範囲としていた。

- ・ 機関リポジトリへの掲載依頼に対応した (4 件)。

(4) 英文誌の発行

- ・ 編集委員の交替を行い、編集委員 21 名で新委員会を発足した。
- ・ Holzemer 編集長来日のもと英文誌編集委員会を 2 回 (平成 25 年 10 月 4 日、平成 26 年 3 月 1 日)、委員会小会議を 2 回 (平成 25 年 5 月 16 日、12 月 6 日)、Web 会議を 2 回 (平成 25 年 5 月 10 日、平成 26 年 1 月 28 日) 開催した。
- ・ Japan Journal of Nursing Science Vol.10 No.1 (2013 年 6 月) と Vol.10 No.2 (2013 年 12 月) を発刊し、それぞれ 7,010 名と 7,640 名に頒布した。Vol.10 No.2 は冊子体の最終号であり、JJNS 発刊 10 周年記念号と位置付け、通常の投稿論文以外に寄稿を依頼し、掲載した。
- ・ 平成 25 年の論文投稿数は 226 本であった。日本人の投稿数は、トルコ、イランについて第 3 位であるため、日本人の投稿数を増やすための方策を検討した。
- ・ 平成 25 年 10 月 5 日に啓発活動としてのセミナー “Improving your success at publishing in English 2013” を開催した。参加者は 191 名で、好評であった。
- ・ 若手学会員の優れた論文の出版を支援するために、平成 26 年度より開始する若手研究者支援事業の詳細を検討した。
- ・ 世界看護科学学会第 3 回学術集会 (平成 25 年 10 月 18 日 韓国) において、投稿促進のため、Call for papers のリーフレットや過去のジャーナル配布の準備を行った。
- ・ 平成 24 年度の impact factor は、0.583 であった (平成 25 年 6 月発表による)。

(5) 看護学学術振興対策

① 看護学学術用語の検討

- ・ 看護学学術用語検討委員会を 4 回開催した。(平成 25 年 9 月 1 日、10 月 26 日、平成 26 年 1 月 25 日、3 月 15 日)
- ・ 看護学学術用語の検討を進めるための作業マニュアルの標準化を図ることが必要であることにつ

いて審議し、ISO の専門用語標準化プロジェクトの作業手続きに則り検討していくこととした。

- ・ 継続的・発展的に用語検討を進めるには、用語検討委員会組織（維持管理システム）を構築する必要がある事について審議し、具体的な用語検討のニーズの発掘や維持管理システムおよび会員や看護界への発信システムを備えた組織案を検討した。組織案の有効性と実効性を確認するために、用語検討ニーズの提案とその検討作業の流れについてモデル作業を開始した。
- ・ すでに発行されている成果物への、一般の方からの用語再検討の要望書（「対象」の用語の用いられ方への疑義）が出されたことを受けて、用語検討へのニーズの一つとして取り上げ、検討中の組織案に則り、検討作業を開始した。

② 国際活動の推進（世界看護科学学会を含む）

国際活動推進委員会

- ・ 委員会を 2 回（平成 25 年 9 月 7 日、平成 26 年 3 月 29 日）開催した。
- ・ 異文化データベースの見直しを行ったが、活用状況が明確ではないので中断か、継続かの結論を今年度は出すことができなかった。国際看護学の担当教員や国際活動に携わっている会員等の意見を聴取する等をしてしながら、継続して検討していくこととなった。

看護学のグローバルスタンダードや国際活動のあり方については検討を重ねた結果、看護系大学（博士課程）がどのようにグローバル化に対応しているか等を調査する方向を決定した。

世界看護科学学会（World Academy of Nursing Science : WANS）

- ・ 国際活動推進委員会は、JANS から WANS 理事会の理事長（Chairperson, Board of Directors）を出しているために、WANS 事務局を担っている。WANS 学術集会の事務局との連絡調整や学会参加への広報活動を行うとともに、平成 25 年度は、10 月 17 日に韓国 Seoul の The K-Seoul Hotel で理事会を開催し、10 月 18 日に韓国 Seoul の The K-Seoul Hotel で開催された第 3 回 WANS 学術集会（会長 Dr. Nam Cho Kim, Korean Society of Nursing Science）の開催を支援した。また、学術集会ではブースを設け、広報委員会と協力して WANS の広報活動を行った。
- ・ 第 3 回 WANS 学術集会の参加者は以下のとおりである。

	WANS 参加者数	WANS 演題数	
		Oral	Poster
Korea	200	5	79
Japan	360	16	246
Overseas	20	11	5
Total	580	32	330

Overseas の国名 : Australia, Canada, China, Egypt, Malaysia, Philippines, Singapore, Taiwan, Thailand, USA

- ・ 平成 25（2013）年 10 月 17 日の理事会での決定事項と検討課題は以下の通りである。
 - 1) 第 4 回 WANS 学術集会は、平成 27（2015）年 10 月に Iris Meyenburg-Altwarz 氏を大会長としてドイツ Hannover にて開催することが決まった。
 - 2) 平成 25（2013）年 12 月 31 日で任期が終わる理事長については JANS からの南裕子氏が次期（平成 26（2014）年 1 月～平成 27（2015）年 12 月）も継続することが決まった。副理事長は、第 4 回 WANS 学術集会会長 Iris Meyenburg-Altwarz 氏となった。
- ・ 課題となっていた WANS の会員拡大と参加費について理事会で議論され、現在、事務局を担うために必要となっている予算を JANS が把握、報告したうえで、会費を徴収するかどうか等について検討することになった。
- ・ 理事長のあいさつをはじめ、WANS のホームページを更新した。

③ 看護倫理の検討と啓発

看護倫理検討委員会

- ・ 看護倫理検討委員会を 2 回（平成 25 年 10 月 26 日、平成 26 年 3 月 29 日）開催した。
- ・ 平成 25 年 11 月と 12 月に米国看護学部教員 2 名に対して、研究倫理審査の対象となる研究計画の種類と審査基準、および研究倫理審査委員会の体制に関するインタビューを行った。
- ・ インタビューを分析し、日本および米国のベースとなる研究倫理指針を踏まえて、病院の看護部および看護系大学の研究倫理審査委員会で扱う研究計画の種類と審査基準、および審査体制のあり方について検討した。
- ・ 本学会における利益相反の取り扱いについて検討した。

研究倫理審査委員会

審議すべき事案が申請されなかったため、委員会は開催されなかった。

④ 研究成果の蓄積と活用

- ・ 研究・学術情報委員会全体会議を 1 回（平成 25 年 8 月 22 日）開催した。
- ・ メール会議を 1 回開催した。
- ・ 第 2 回・第 3 回 JANS セミナーの企画を行った。モデレーターは研究・学術情報委員会のメンバーが行った。
- ・ 「看護系若手研究者研究状況および有効な育成・支援策に関する調査」から委員会の合意を得て原著論文を投稿した。
- ・ 委員会メンバーで、かつ「若手の会」メンバーが第 33 回日本看護科学学会学術集会交流会にて、「JANS 若手アカデミーの組織化-未来を創造・想像しよう」を企画し、多数の参加者があった。

(6) 学術研究論文の表彰

- ・ 表彰論文選考委員会を 2 回（平成 25 年 8 月 31 日、10 月 25 日）開催した（いずれも対面会議と Web 会議を併用して開催）。
- ・ 第 1 回委員会（平成 25 年 8 月 31 日）にて表彰論文選考方針、選考基準、選考手順を決定した。
- ・ 委員会にて優秀賞候補 3 論文（和文 2 論文、英文 1 論文）および奨励賞候補 3 論文（和文 3 論文）を絞り込み、これらについて、平成 25 年 9 月中旬に全代議員 202 名に採点を依頼した。
- ・ 10 月 25 日までに返信された 70 通について評価点の集計を行った（回収率 34.7%）。
- ・ 第 2 回委員会（平成 25 年 10 月 31 日）にて集計結果に基づき最終選考を行い、以下のように優秀賞論文 1 編、奨励賞論文 2 編を決定し、理事会（平成 25 年 11 月 4 日）に報告し、承認を得た。

【優秀賞】

Nobuko OKUBO :

Effectiveness of the “Elevated Position” Nursing Care Program in promoting the reconditioning of patients with acute cerebrovascular disease. Japan Journal of Nursing Science, 9(1), 76-87, 2012.

【奨励賞】

角田秋, 柳井晴夫, 上野桂子, 木全真理, 瀬尾智美, 船越明子, 萱間真美 :

精神科訪問看護ケアの類型化の検討—訪問看護ステーションが統合失調症を有する人へ提供するケアの類型と対象の特性—, 日本看護科学会誌, 32 (2), 3-12, 2012.

【奨励賞】

布谷（吹田）麻耶, 鎌倉やよい, 深田順子, 熊澤友紀 :

クローン病患者への食事指導プログラムの開発と有効性の検証, 日本看護科学会誌, 32 (3), 74-84, 2012.

(7) 学会組織の強化・発展

1) 将来構想に基づく新たな事業計画

若手研究者育成のための新規事業

- ・ 平成 25 年 9 月、研究・学術情報委員会の報告書「若手看護学研究者の研究実施状況に関する調査」を学会ホームページに掲載した。
- ・ 平成 25 年 12 月 7 日、JANS33 にて、交流集会「JANS 若手アカデミーの組織化～未来の創造・想像しよう」を開催した。
- ・ 平成 26 年 3 月、Japan Journal of Nursing Science (JJNS) による若手研究者支援策として、39 歳以下の会員を対象に、JJNS 投稿にあたり英文校閲費用の支払いを英文誌編集委員会が負担する支援事業の募集を開始した。

学術振興事業検討委員会の設立

- ・ 学術振興事業検討委員会を 2 回（平成 25 年 5 月 11 日、平成 25 年 11 月 4 日）開催した。

- ・ 第1回委員会（5月11日）にて、本学会の課題と発展の方向性として、JANSの Nursing Academy としての特性や組織力をいかした活動、看護科学若手研究者アカデミー（仮）の立ち上げ、学会としての up to date な政策提言とした。
- ・ 第2回委員会（11月4日）にて、若手アカデミーによる JANS33 での交流集会と同アカデミーの将来像、JANS セミナーの基本方針、異分野の若手との議論の場の必要性、賛助会員増のためのマーケティング等について意見交換をした。

学術振興事業の実施（JANS セミナー等）

- ・ 平成25年6月23日、ベルサール神田（東京都千代田区）にて、第2回 JANS セミナー「量的研究方法 高度看護実践のエビデンスを問う臨床研究」を開催した。参加者383名。
- ・ 平成26年1月25日、AP 浜松町（東京都港区）にて、第3回 JANS セミナー「質的研究：Research Question に適合する研究方法を見極める」を開催した。参加者244名。

2) 財務基盤安定化に向けての取り組み

- ・ 学会誌の電子化準備

日本看護科学会誌

和文誌のオンラインジャーナル化を行い、国際文献社との仕様打ち合わせを3回（平成25年9月24日、平成25年12月13日、平成26年3月13日）行った。論文の掲載数と読者による利用の便宜を最大にするため、論文は随時掲載とすること、論文公開時には会員に向けた一斉メールを配信することとし、配信の体制、メールの書式を決定し、平成26年1月より実施した。（4月までに4回配信済）

平成25年は従来通り、年4回の冊子発行と冊子発行都度の電子ジャーナル(J-STAGE)登載とし、12月に季刊としての最終号を発行した。平成26(2014)年1月より論文単位での J-STAGE 搭載となり、冊子体は年末に4冊分の合本版を頒布する。2015年以降は、冊子体の会員頒布は行わず、電子ジャーナルに完全移行する。

JJNS

online-only journal となることの広報を平成23年度より開始した。具体的には、オンライン投稿サイトおよび投稿者へのメールで説明を行ったため、問題なく電子化が実施できた。

平成26年4月からは online-only journal として、年4回の発行とすることとした。現在、2,000余りの世界の図書館にオンラインで配信されている。

平成25年12月に冊子体最終号（Vol.10, No.2、10周年記念号）を発行し、平成26年1月以降、Online Only Journal 化した。

- ・ **選挙の電子化**

平成 25 年選出理事候補者選挙を初めての試みとして Web 選挙で行なった。今後、行なわれる平成 26 年選出代議員選挙、平成 27 年選出役員候補者選挙（理事および監事）も Web 選挙方式で行う予定である。

- ・ **委員会等の遠隔会議システムの導入**

Web 会議システムを平成 24（2012）年 10 月より採用し、委員会や理事会における交通費等の経費削減および移動時間の軽減を図っている。

- ・ **受取会費配分率の変更**

平成 24 年 11 月社員総会にて、受取会費配分率の変更（公益目的事業 40%：法人会計 60%）および会費配分率を定める定款施行細則第 2 条の改正が承認され、平成 25 年度より受取会費配分率を変更した。これにより、公益目的事業収入が予算を大きく上回る場合にも、公益認定基準（公益目的事業収入が同支出を上回ってはいけない）に抵触する懸念は小さくなった。また、収益事業で得た収益を着実に公益目的事業に使用することができるようになり、公益目的事業を活発に行いながらも学会の財務基盤の安定化に向けて効果的な施策となった。

(8) 社会貢献活動

- ・ 社会貢献委員会を 2 回（平成 25 年 9 月 8 日、12 月 7 日）開催、メーリングリストを作成し、多くのことをメール審議とした。
- ・ 第 1 回社会貢献委員会（平成 25 年 9 月 8 日（日））では、第 33 回日本看護科学学会学術集会における企画についての検討を行った。市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェの各担当委員を決め、企画案について審議した。
- ・ 講演者の選定、企画の詳細については、都度メールで検討し準備を進めた。広報活動については、広報委員会との協働、学術集会開催校からの協力を得て行った。
- ・ 第 2 回社会貢献委員会（平成 25 年 12 月 7 日（土））では、市民フォーラム演者を交えて、両事業の最終打ち合わせを行った。
- ・ 平成 25 年 12 月 7 日（土）、市民フォーラムは『ほんまかいな！笑いの力で健康増進』をテーマに、2 名の講師による笑いヨガを取り入れた参加型の講演を行い、20－70 歳代と幅広い年代層の約 230 名の参加者が得られた。また、ナーシング・サイエンス・カフェは、『めざせ看護職！先輩が語る看護の仕事とその魅力』をテーマに、3 人の若手看護職に経験や展望を語っていただき、グループに分かれて中高生とのフリートークを行った。中・高校生 9 名、保護者 3 名、オブザーバー（学会参加者）24 名の参加であった。終了時にアンケートを実施し、両プログ

ラムともにわかりやすく、満足いただける内容であった。

- ・ 平成 26 年度、第 35 回学術集会における企画に関して、メール審議にて検討を行い、これまでも課題とされている、広報やナーシング・サイエンス・カフェの雰囲気づくりについては、更なる工夫が必要であり、種々の提案が出された。

(9) 広報活動

- ・ 広報委員会を 1 回（平成 26 年 2 月 10 日）、ほか、メール会議を複数回開催した。
- ・ 学術集会企画委員会との連携強化
 - ① 平成 25 年 4 月に企画委員会への申し送りをし、学術集会までに企画委員会に 4 回参加した。
 - ② 第 33 回日本看護科学学会学術集会に関連した広報活動を行った。（プレスリリースの作成、フライヤーの印刷・配布）
 - ③ 第 34 回日本看護科学学会学術集会に関連した広報活動について、地元の企画委員から紹介してもらう等、メディアの選択方法について改善した。
- ・ 社会貢献委員会との連携強化
 - ① 市民フォーラム広報について広報媒体の作成、配布を行った。
 - ② ナーシング・サイエンス・カフェの広報媒体の作成、配布を行った。
- ・ 国際活動委員会との連携強化
 - ① 第 3 回 WANS 学術集会の広報を行った。（学術集会のフライヤー作成、WANS 会場でのパンフレットの配布）
- ・ JANS 広報媒体の検討
 - ① 広報活動の対象（若手研究者や高校生）、若手がアクセスしたいと思えるような媒体を検討した。FB などの SNS を開始することについては、更新者、更新頻度などについて事務局と協議が必要であり、継続課題とした。今後会員のニーズを見極めて対応したい。
 - ② SNS、JANS ホームページを活用した若手研究者のネットワーク構築支援の方法を検討した。
- ・ 取材マニュアルの整備
 - ① 学会への取材の申し込みフォームを整えた。（JANS33 ではフォームからの申込 1 件）
- ・ 学会 HP の充実
 - ① 随時内容の更新、整理を行った。
 - ② 学術集会の記録をホームページにアップした。

(10) 災害看護支援事業 （日本看護系学会協議会との共同事業による）

- ・ 災害看護支援事業専門委員会を2回（平成25年5月10日、平成26年1月16日）、web会議を1回（平成25年10月6日）開催した。
- ・ 平成25年度の災害看護支援金による事業助成金申請の募集（募集期間平成25年2月25日～4月18日）を行った。12件の応募（助成希望額の総額は7,050,540円）があった中から、災害看護支援事業規程第7条並びに応募要項の採択基準に基づいて厳正に審査を行った結果、平成25年度分として以下の4件を採択した。助成金の総額は、1,600,000円（300,000～500,000円）であった。
 - ① 東日本大震災および福島原発事故により茨城県に避難している母子の支援活動
（代表者・渋谷えみ氏）
 - ② 宮城大学看護学生・教職員による南三陸町に在住する高齢者への健康支援活動の充実強化
（代表者・佐々木久美子氏）
 - ③ 元気な高齢者を増やす取組み（代表者・川嶋みどり氏）
 - ④ 復興の力、コミュニティ再建のための中長期支援～はまってけらいん（集まって）かだつてけらいん（語って）を合い言葉に～（代表者・尾山とし子氏）
- ・ 平成25年8月末に事業の進捗状況について中間報告、3月31日に最終報告の提出を受け、事業が順調に実施されたことを確認した。
- ・ 本事業は日本看護系学会協議会（JANA）との共催で実施しているため、平成25年度助成事業の最終報告書、収支報告書及び平成25年度助成事業の中間報告書をJANAに提出した。
- ・ 第33回日本看護科学学会学術集会において、「災害看護支援助成事業から見える災害看護の課題と方向性」をテーマに交流集会を開催した。また同学会の2日間に、支援事業の支援金を集めることを目的にワンコイン募金を実施した。学会参加者のご協力により、総額 304,659円が集まった。
- ・ 平成26年2月26日より平成26年度の助成申請の募集を開始した。

(11) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会

- ・ 平成25年6月17日（月）、平成25年度総会が日本赤十字看護大学 広尾ホールで開催され、小松前理事長、田代前副理事長が出席した。総会において、3学会（日本母子看護学会、運動器看護学会、日本公衆衛生看護学会）の新入が承認され、計41学会となった。

本年度の新規活動として、日本学術会議・学術組織との交流・相互協力の事業として「看護ケアガイドライン開発推進プロジェクト」が承認され、今年度各学会の現状確認することが承認された。新規事業として、(1) 日本看護系協議会の在り方検討会の立ち上げ、(2) 役員選出に関する検討プロジェクトを立ち上げることが承認された。

本学会、小松前理事長より東日本大震災支援事業の事業費確保のため、各学会へ募金の取り組みを依頼した。

総会後、「看護学領域における外部資金獲得のために」と題して、講演会がなされた。

- ・ 科学研究費補助金助成のキーワード意見募集について JANS としての意見を取りまとめ、キーワードの提案を日本看護系学会協議会へ提出した。

② 看護系学会等社会保険連合（看保連）

- ・ 平成 25 年度は、理事会 5 回、社員総会 1 回、臨時社員総会 1 回を開催。
- ・ 社員総会並びに臨時社員総会において、会費制度の改正について審議し、社員総会では会費は一律とすること、日本看護協会より賛助会員会費 500 万円を受領することを決定。臨時社員総会では、会費は一律 7 万円とし、会費額の変更は平成 26 年度から実施することが決まった。
- ・ 会費制度の変更に伴い、日本看護協会より賛助会員の入会申し込みがあり、平成 26 年 4 月 9 日の理事会で承認された。また、平成 25 年 3 月 31 日をもって日本遺伝看護学会が退会することとなったため、加盟団体は 48 となった。
- ・ 平成 26 年度診療報酬改定において、看保連から医療技術評価提案書（未収載技術 14 件、既収載技術 9 件）と診療報酬改定要望書を厚生労働省に提出した。
- ・ 平成 27 年度の介護報酬改定について、介護報酬改定に向けたワーキンググループを立ち上げ、要望書の検討を行っている。
- ・ 第 11 回および第 12 回三保連合同シンポジウムが開催された。第 11 回のテーマは「平成 26 年度診療報酬改定に期待するもの」で看保連からは任和子看護技術委員会委員長が看保連の医療技術評価提案と要望書について発表した。第 12 回は「内保連・外保連・看保連の現時点における中心的課題」というテーマで、岡谷理事が看護必要度と患者像について発表した。
- ・ 「診療報酬の適正評価のための看護ケア技術体系化に向けた研究事業」の研究会議が 8 回開催された。平成 26 年度も継続して実施する予定。
- ・ 平成 25 年度の研究助成は 4 件（総額 200 万円）に対して実施された。その成果報告会が平成 26 年度社員総会（4 月 21 日）の後で行われた。
- ・ 平成 26 年 4 月 21 日に開催された平成 26 年度社員総会において、平成 25 年度臨時社員総会議事録、決算報告および監査報告について審議が行われ、すべて承認された。

③ 日本学術会議

- ・ 日本学術会議から提供のあった日本学術会議ニュース・メールを役員に提供した。

④ その他の機関

- ・ 厚生労働省の診療の補助における特定行為（案）と指定研修における行為群（案）に関する意見の募集について、対応した。

(12) 理事選挙

- ・ 選挙管理委員会を1回（4月22日）開催した。
- ・ 理事候補者選挙（平成24年12月15日公示、平成25年2月7日～28日 Web 選挙方式での投票期間、3月1日開票）を経て、5月12日に理事候補者名簿および次点者名簿を理事会へ提出した。
- ・ 理事会は、選挙管理委員会から提出された理事候補者名簿をもとに、理事候補者15名の選任案を作成した。
- ・ 平成25年6月23日、定例社員総会において理事候補者の信任投票が行われ、理事選任案が承認された。

貸借対照表
平成 26年 3月 31日 現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	91,908,366	76,662,373	15,245,993
未収会費	2,500,000	1,380,000	1,120,000
未収金	840,000	389,013	450,987
たな卸資産	286,916	193,568	93,348
前払費用	2,153,101	1,786,835	366,266
流動資産合計	97,688,383	80,411,789	17,276,594
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
選挙積立預金	1,445,466	1,362,252	83,214
退職給付引当資産	3,112,500	2,184,239	928,261
寄付積立資産	0	20,000	△ 20,000
災害看護支援資産	1,486,251	2,085,957	△ 599,706
災害支援準備資金	3,500,000	0	3,500,000
特定資産合計	9,544,217	5,652,448	3,891,769
(3) その他固定資産			
什器備品	261,792	313,145	△ 51,353
ソフトウェア	0	162,433	△ 162,433
一括償却資産	105,545	68,988	36,557
電話加入権	72,030	72,030	0
保証金	1,400,000	1,400,000	0
長期前払費用	105,000	0	105,000
その他固定資産合計	1,944,367	2,016,596	△ 72,229
固定資産合計	11,488,584	7,669,044	3,819,540
資産合計	109,176,967	88,080,833	21,096,134
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受会費	17,350,000	16,850,000	500,000
未払費用	856,540	2,559,409	△ 1,702,869
未払法人税等	70,000	70,000	0
未払消費税等	471,300	600,600	△ 129,300
前受金	1,458,000	0	1,458,000
預り金	112,870	236,972	△ 124,102
仮受金	10,000	0	10,000
流動負債合計	20,328,710	20,316,981	11,729
2. 固定負債			
退職給付引当金	3,112,500	2,184,239	928,261
固定負債合計	3,112,500	2,184,239	928,261
負債合計	23,441,210	22,501,220	939,990
III 正味財産の部			
1. 基金			
基金	72,926,624	72,926,624	0
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 指定正味財産			
寄付金	1,486,251	2,105,957	△ 619,706
指定正味財産合計	1,486,251	2,105,957	△ 619,706
(うち特定資産への充当額)	(1,486,251)	(2,105,957)	(△ 619,706)
3. 一般正味財産			
(1) 代替基金	0	0	0
(2) その他一般正味財産	11,322,882	△ 9,452,968	20,775,850
一般正味財産合計	11,322,882	△ 9,452,968	20,775,850
(うち特定資産への充当額)	(4,945,466)	(1,362,252)	(3,583,214)
正味財産合計	85,735,757	65,579,613	20,156,144
負債及び正味財産合計	109,176,967	88,080,833	21,096,134

貸借対照表内訳表
平成 26年 3月 31日 現在

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引消去	合計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	0	0	91,908,366	0	91,908,366
未収会費	0	0	2,500,000	0	2,500,000
未収金	840,000	0	0	0	840,000
たな卸資産	286,916	0	0	0	286,916
前払費用	1,681,250	0	471,851	0	2,153,101
他会計短期貸付金	0	0	22,515,235	△ 22,515,235	0
流動資産合計	2,808,166	0	117,395,452	△ 22,515,235	97,688,383
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
基本財産合計	0	0	0	0	0
(2) 特定資産					
選挙積立預金	0	0	1,445,466	0	1,445,466
退職給付引当資産	0	0	3,112,500	0	3,112,500
災害看護支援資産	1,486,251	0	0	0	1,486,251
災害支援準備資金	3,500,000	0	0	0	3,500,000
特定資産合計	4,986,251	0	4,557,966	0	9,544,217
(3) その他固定資産					
什器備品	96,056	4,232	161,504	0	261,792
一括償却資産	0	0	105,545	0	105,545
電話加入権	0	0	72,030	0	72,030
保証金	0	0	1,400,000	0	1,400,000
長期前払費用	0	0	105,000	0	105,000
その他固定資産合計	96,056	4,232	1,844,079	0	1,944,367
固定資産合計	5,082,307	4,232	6,402,045	0	11,488,584
資産合計	7,890,473	4,232	123,797,497	△ 22,515,235	109,176,967
II 負債の部					
1. 流動負債					
前受会費	150,000	0	17,200,000	0	17,350,000
未払費用	719,756	0	136,784	0	856,540
未払法人税等	0	70,000	0	0	70,000
未払消費税等	0	0	471,300	0	471,300
前受金	0	1,458,000	0	0	1,458,000
預り金	0	0	112,870	0	112,870
仮受金	0	0	10,000	0	10,000
他会計短期借入金	21,076,834	1,438,401	0	△ 22,515,235	0
流動負債合計	21,946,590	2,966,401	17,930,954	△ 22,515,235	20,328,710
2. 固定負債					
退職給付引当金	0	0	3,112,500	0	3,112,500
固定負債合計	0	0	3,112,500	0	3,112,500
負債合計	21,946,590	2,966,401	21,043,454	△ 22,515,235	23,441,210
III 正味財産の部					
1. 基金					
基金	0	0	72,926,624	0	72,926,624
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
2. 指定正味財産					
寄付金	1,486,251	0	0	0	1,486,251
指定正味財産合計	1,486,251	0	0	0	1,486,251
(うち特定資産への充当額)	(1,486,251)	(0)	(0)	(0)	(1,486,251)
3. 一般正味財産					
(1) 代替基金	0	0	0	0	0
(2) その他一般正味財産	△ 15,542,368	△ 2,962,169	29,827,419	0	11,322,882
一般正味財産合計	△ 15,542,368	△ 2,962,169	29,827,419	0	11,322,882
(うち特定資産への充当額)	(3,500,000)	(0)	(1,445,466)	(0)	(4,945,466)
正味財産合計	△ 14,056,117	△ 2,962,169	102,754,043	0	85,735,757
負債及び正味財産合計	7,890,473	4,232	123,797,497	△ 22,515,235	109,176,967

正味財産増減計算書

平成 25年 4月 1日 から平成 26年 3月 31日 まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益			
特定資産受取利息	676	661	15
受取会費			
正会員受取会費	76,150,000	70,450,000	5,700,000
賛助会員受取会費	300,000	300,000	0
受取会費計	76,450,000	70,750,000	5,700,000
事業収益			
学会誌収益	3,142,227	2,304,289	837,938
学術集会収益	41,798,000	37,923,000	3,875,000
広告販売収益	13,221,848	10,232,711	2,989,137
事業収益計	58,162,075	50,460,000	7,702,075
受取寄付金			
受取寄付金	2,009,000	1,020,000	989,000
受取寄付金振替額	1,620,000	3,118,240	△ 1,498,240
受取寄付金計	3,629,000	4,138,240	△ 509,240
雑収益			
受取利息	5,102	4,646	456
著作権料収益	310,856	383,270	△ 72,414
セミナー収益	3,460,000	0	3,460,000
懇親会収益	806,000	538,000	268,000
雑収益	7,076	1,724,000	△ 1,716,924
雑収益計	4,589,034	2,649,916	1,939,118
経常収益計	142,830,785	127,998,817	14,831,968
(2) 経常費用			
事業費			
期首たな卸高	272,687	173,202	99,485
和文誌発行費	8,997,368	12,540,425	△ 3,543,057
英文誌発行費	18,003,619	16,658,907	1,344,712
学術集会プログラム・案内	0	5,196,970	△ 5,196,970
期末たな卸高	△ 286,916	△ 193,568	△ 93,348
給料手当	5,609,230	5,753,186	△ 143,956
臨時雇賃金	268,200	196,200	72,000
賞与	398,817	267,739	131,078
退職給付費用	355,601	237,828	117,773
福利厚生費	698,654	698,619	35
旅費交通費	3,759,953	2,866,223	893,730
通信運搬費	3,029,623	1,256,102	1,773,521
減価償却費	22,949	28,173	△ 5,224
消耗品費	475,929	358,721	117,208
修繕費	58,324	12,403	45,921
印刷製本費	9,573,893	6,627,482	2,946,411
光熱水料費	276,478	246,608	29,870
賃借料	1,653,827	1,809,122	△ 155,295
保険料	21,720	2,774	18,946
諸謝金	1,206,500	918,104	288,396
租税公課	752,948	600,600	152,348
支払助成金	1,600,000	2,818,240	△ 1,218,240
委託費	11,675,463	10,099,843	1,575,620
会議費	1,072,471	1,237,302	△ 164,831
表彰費	123,513	118,925	4,588
会場費	20,454,095	28,365,975	△ 7,911,880
通勤手当	575,701	511,305	64,396
懇親会費	0	720,114	△ 720,114
雑費	1,717,626	795,738	921,888
事業費計	92,368,273	100,923,262	△ 8,554,989
管理費			
給料手当	9,033,108	8,858,634	174,474
賞与	642,255	412,261	229,994
臨時雇賃金	120,750	118,000	2,750
退職給付費用	572,660	366,203	206,457
福利厚生費	1,125,114	1,075,720	49,394
会議費	5,035,492	3,810,640	1,224,852
渉外費	10,290	10,290	0
旅費交通費	451,690	653,717	△ 202,027

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
通信運搬費	1,340,963	1,203,816	137,147
減価償却費	260,704	366,994	△ 106,290
通勤手当	927,109	787,295	139,814
消耗品費	543,098	581,699	△ 38,601
修繕費	93,926	19,097	74,829
印刷製本費	96,102	29,028	67,074
慶弔費	0	65,717	△ 65,717
光熱水料費	445,241	379,724	65,517
賃借料	2,663,325	2,785,650	△ 122,325
保険料	4,784	4,270	514
諸謝金	211,603	0	211,603
租税公課	22,049	55,111	△ 33,062
支払負担金	280,000	280,000	0
委託費	3,092,627	2,391,419	701,208
資格喪失者会費	970,000	1,420,000	△ 450,000
懇親会費	875,080	0	875,080
雑費	877,660	763,808	113,852
管理費計	29,695,630	26,439,093	3,256,537
経常費用計	122,063,903	127,362,355	△ 5,298,452
評価損益等調整前当期経常増減額	20,766,882	636,462	20,130,420
当期経常増減額	20,766,882	636,462	20,130,420
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
前期たな卸高修正益	79,119	0	79,119
経常外収益計	79,119	0	79,119
(2) 経常外費用			
什器備品除却損	151	0	151
前期たな卸高修正損	0	1,267	△ 1,267
経常外費用計	151	1,267	△ 1,116
当期経常外増減額	78,968	△ 1,267	80,235
税引前当期一般正味財産増減額	20,845,850	635,195	20,210,655
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	20,775,850	565,195	20,210,655
一般正味財産期首残高	△ 9,452,968	△ 10,018,163	565,195
一般正味財産期末残高	11,322,882	△ 9,452,968	20,775,850
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金			
受取寄付金	1,000,150	1,457,100	△ 456,950
特定資産受取利息	144	345	△ 201
受取寄付金計	1,000,294	1,457,445	△ 457,151
一般正味財産への振替額			
一般正味財産への振替額	△ 1,620,000	△ 3,118,240	1,498,240
当期指定正味財産増減額	△ 619,706	△ 1,660,795	1,041,089
指定正味財産期首残高	2,105,957	3,766,752	△ 1,660,795
指定正味財産期末残高	1,486,251	2,105,957	△ 619,706
III 基金増減の部			
基金受入額	0	0	0
基金返還額	0	0	0
当期基金増減額	0	0	0
基金期首残高	72,926,624	72,926,624	0
基金期末残高	72,926,624	72,926,624	0
IV 正味財産期末残高	85,735,757	65,579,613	20,156,144

正味財産増減計算書内訳表
平成 25年 4月 1日 から平成 26年 3月 31日 まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計							収益事業等会計				法人会計	合計
	学術振興事業	学会誌事業	学術集会事業	市民講座等事業	災害看護支援事業	共通	小計	広告販売事業	連携事業	共通	小計		
I 一般正味財産増減の部													
1. 経常増減の部													
(1) 経常収益													
特定資産運用益													
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	676	676
受取会費													
正会員受取会費	0	0	0	0	0	30,460,000	30,460,000	0	0	0	0	45,690,000	76,150,000
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	300,000	300,000	0	0	0	0	0	300,000
受取会費計	0	0	0	0	0	30,760,000	30,760,000	0	0	0	0	45,690,000	76,450,000
事業収益													
学会誌収益	0	3,142,227	0	0	0	0	3,142,227	0	0	0	0	0	3,142,227
学術集会収益	0	0	41,798,000	0	0	0	41,798,000	0	0	0	0	0	41,798,000
広告販売収益	0	0	0	0	0	0	0	13,221,848	0	0	13,221,848	0	13,221,848
事業収益計	0	3,142,227	41,798,000	0	0	0	44,940,227	13,221,848	0	0	13,221,848	0	58,162,075
受取寄付金													
受取寄付金	0	0	2,009,000	0	0	0	2,009,000	0	0	0	0	0	2,009,000
受取寄付金振替額	0	0	20,000	0	1,600,000	0	1,620,000	0	0	0	0	0	1,620,000
受取寄付金計	0	0	2,029,000	0	1,600,000	0	3,629,000	0	0	0	0	0	3,629,000
雑収益													
受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,102	5,102
著作権料収益	0	310,856	0	0	0	0	310,856	0	0	0	0	0	310,856
セミナー収益	2,081,000	1,379,000	0	0	0	0	3,460,000	0	0	0	0	0	3,460,000
懇親会収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	806,000	806,000
雑収益	3,572	0	0	0	0	0	3,572	0	0	0	0	3,504	7,076
雑収益計	2,084,572	1,689,856	0	0	0	0	3,774,428	0	0	0	0	814,606	4,589,034
経常収益計	2,084,572	4,832,083	43,827,000	0	1,600,000	30,760,000	83,103,655	13,221,848	0	0	13,221,848	46,505,282	142,830,785
(2) 経常費用													
事業費													
期首たな卸高	0	272,687	0	0	0	0	272,687	0	0	0	0	0	272,687
和文誌発行費	0	8,997,368	0	0	0	0	8,997,368	0	0	0	0	0	8,997,368
英文誌発行費	0	18,003,619	0	0	0	0	18,003,619	0	0	0	0	0	18,003,619
期末たな卸高	0	△ 286,916	0	0	0	0	△ 286,916	0	0	0	0	0	△ 286,916
給料手当	2,752,106	1,215,194	1,273,537	131,688	0	0	5,372,525	86,681	150,024	0	236,705	0	5,609,230
臨時雇賃金	33,000	73,700	158,678	0	0	0	265,378	2,822	0	0	2,822	0	268,200
賞与	195,675	86,400	90,549	9,363	0	0	381,987	6,163	10,667	0	16,830	0	398,817
退職給付費用	174,472	77,038	80,737	8,348	0	0	340,595	5,495	9,511	0	15,006	0	355,601
福利厚生費	342,787	151,358	158,625	16,402	0	0	669,172	10,796	18,686	0	29,482	0	698,654
旅費交通費	1,494,496	1,063,076	1,110,144	68,746	0	0	3,736,462	20,864	2,627	0	23,491	0	3,759,953
通信運搬費	449,798	221,346	2,266,381	20,334	0	0	2,957,859	49,715	22,049	0	71,764	0	3,029,623
減価償却費	0	0	0	0	0	19,619	19,619	340	2,990	0	3,330	0	22,949
消耗品費	187,396	102,590	157,797	12,530	0	0	460,313	6,638	8,978	0	15,616	0	475,929
修繕費	28,616	12,636	13,242	1,369	0	0	55,863	901	1,560	0	2,461	0	58,324
印刷製本費	29,279	107,586	9,268,520	1,401	0	0	9,406,786	165,511	1,596	0	167,107	0	9,573,893
光熱水料費	135,651	59,897	62,772	6,491	0	0	264,811	4,272	7,395	0	11,667	0	276,478
賃借料	811,432	358,288	375,490	38,827	0	0	1,584,037	25,557	44,233	0	69,790	0	1,653,827
保険料	1,457	644	19,424	70	0	0	21,595	46	79	0	125	0	21,720
諸謝金	182,478	83,411	840,378	100,233	0	0	1,206,500	0	0	0	0	0	1,206,500
租税公課	47,773	110,740	291,421	0	0	0	449,934	303,014	0	0	303,014	0	752,948
支払助成金	0	0	0	0	1,600,000	0	1,600,000	0	0	0	0	0	1,600,000
委託費	969,130	853,936	9,762,328	48,839	0	0	11,634,233	15,097	26,133	0	41,230	0	11,675,463
会議費	115,903	167,078	747,472	28,725	0	0	1,059,178	13,293	0	0	13,293	0	1,072,471
表彰費	0	123,513	0	0	0	0	123,513	0	0	0	0	0	123,513
会場費	1,015,784	204,000	18,480,703	424,950	0	0	20,125,437	328,658	0	0	328,658	0	20,454,095
通勤手当	282,461	124,721	130,709	13,516	0	0	551,407	8,896	15,398	0	24,294	0	575,701
雑費	331,182	118,069	1,213,207	12,795	0	0	1,675,253	27,797	14,576	0	42,373	0	1,717,626
事業費計	9,580,876	32,301,979	46,502,114	944,627	1,600,000	19,619	90,949,215	1,082,556	336,502	0	1,419,058	0	92,368,273

管理費														
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9,033,108	9,033,108
賞与	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	642,255	642,255
臨時雇賃金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	120,750	120,750
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	572,660	572,660
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,125,114	1,125,114
会議費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,035,492	5,035,492
渉外費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10,290	10,290
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	451,690	451,690
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,340,963	1,340,963
減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	260,704	260,704
通勤手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	927,109	927,109
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	543,098	543,098
修繕費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	93,926	93,926
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	96,102	96,102
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	445,241	445,241
賃借料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,663,325	2,663,325
保険料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,784	4,784
諸謝金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	211,603	211,603
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22,049	22,049
支払負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	280,000	280,000
委託費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,092,627	3,092,627
資格喪失者会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	970,000	970,000
懇親会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	875,080	875,080
雑費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	877,660	877,660
管理費計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29,695,630	29,695,630
経常費用計	9,580,876	32,301,979	46,502,114	944,627	1,600,000	19,619	90,949,215	1,082,556	336,502	0	1,419,058	29,695,630	122,063,903	
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 7,496,304	△ 27,469,896	△ 2,675,114	△ 944,627	0	30,740,381	△ 7,845,560	12,139,292	△ 336,502	0	11,802,790	16,809,652	20,766,882	
当期経常増減額	△ 7,496,304	△ 27,469,896	△ 2,675,114	△ 944,627	0	30,740,381	△ 7,845,560	12,139,292	△ 336,502	0	11,802,790	16,809,652	20,766,882	
2. 経常外増減の部														
(1) 経常外収益														
前期たな卸高修正益	0	79,119	0	0	0	0	79,119	0	0	0	0	0	79,119	
経常外収益計	0	79,119	0	0	0	0	79,119	0	0	0	0	0	79,119	
(2) 経常外費用														
什器備品除却損	0	0	0	0	0	55	55	1	2	0	3	93	151	
経常外費用計	0	0	0	0	0	55	55	1	2	0	3	93	151	
当期経常外増減額	0	79,119	0	0	0	△ 55	79,064	△ 1	△ 2	0	△ 3	△ 93	78,968	
他会計振替額	0	0	0	0	0	11,325,941	11,325,941	△ 11,325,941	0	0	△ 11,325,941	0	0	
税引前当期一般正味財産増減額	△ 7,496,304	△ 27,390,777	△ 2,675,114	△ 944,627	0	42,066,267	3,559,445	813,350	△ 336,504	0	476,846	16,809,559	20,845,850	
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	0	0	0	0	70,000	0	0	70,000	0	70,000	
当期一般正味財産増減額	△ 7,496,304	△ 27,390,777	△ 2,675,114	△ 944,627	0	42,066,267	3,559,445	743,350	△ 336,504	0	406,846	16,809,559	20,775,850	
一般正味財産期首残高	△ 17,535,006	△ 84,697,651	△ 30,858,948	△ 2,391,085	△ 104,920	116,485,797	△ 19,101,813	684,461	△ 4,053,476	0	△ 3,369,015	13,017,860	△ 9,452,968	
一般正味財産期末残高	△ 25,031,310	△ 112,088,428	△ 33,534,062	△ 3,335,712	△ 104,920	158,552,064	△ 15,542,368	1,427,811	△ 4,389,980	0	△ 2,962,169	29,827,419	11,322,882	
II 指定正味財産増減の部														
受取寄付金														
受取寄付金	0	0	0	0	1,000,150	0	1,000,150	0	0	0	0	0	1,000,150	
特定資産受取利息	0	0	0	0	144	0	144	0	0	0	0	0	144	
受取寄付金計	0	0	0	0	1,000,294	0	1,000,294	0	0	0	0	0	1,000,294	
一般正味財産への振替額														
一般正味財産への振替額	0	0	△ 20,000	0	△ 1,600,000	0	△ 1,620,000	0	0	0	0	0	△ 1,620,000	
当期指定正味財産増減額	0	0	△ 20,000	0	△ 599,706	0	△ 619,706	0	0	0	0	0	△ 619,706	
指定正味財産期首残高	0	0	20,000	0	2,085,957	0	2,105,957	0	0	0	0	0	2,105,957	
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	1,486,251	0	1,486,251	0	0	0	0	0	1,486,251	
III 基金増減の部														
基金受入額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
基金返還額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当期基金増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
基金期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72,926,624	72,926,624
基金期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72,926,624	72,926,624
IV 正味財産期末残高	△ 25,031,310	△ 112,088,428	△ 33,534,062	△ 3,335,712	1,381,331	158,552,064	△ 14,056,117	1,427,811	△ 4,389,980	0	△ 2,962,169	102,754,043	85,735,757	

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1)当法人は、公益法人会計基準（平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会）を採用している。

(2)棚卸資産の評価基準及び評価方法
最終仕入原価法による原価法によっている。

(3)固定資産の減価償却の方法
法人税法の規定に基づき次のとおりの償却方法を採用している。
①什器備品・・・・・・定率法によっている。
②ソフトウェア・・・・5年間にわたる定額法によっている。
③一括償却資産・・・・3年間にわたる定額法によっている。

(4)引当金の計上基準
退職給付引当金・・・・・・当期末退職給与の自己都合要支給額に相当する額を計上している。

(5)消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

(6)前期たな卸高修正益
前期末のたな卸資産の計上額に誤りがあったため、期中において修正を行い、その修正額79,119円を前期たな卸高修正益に計上している。そのため貸借対照表（前年度）のたな卸資産193,568円と正味財産増減計算書及び正味財産増減計算書内訳表における期首たな卸高272,687円には79,119円の差額が生じている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
選挙積立預金	1,362,252	200,254	117,040	1,445,466
退職給付引当資産	2,184,239	928,261	0	3,112,500
寄付積立資産	20,000	0	20,000	0
災害看護支援資産	2,085,957	1,000,294	1,600,000	1,486,251
災害支援準備資金	0	3,500,000	0	3,500,000
合 計	5,652,448	5,628,809	1,737,040	9,544,217

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち基金からの充 当額)	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応す る額)
特定資産					
選挙積立預金	1,445,466	(0)	(0)	(1,445,466)	(0)
退職給付引当資産	3,112,500	(0)	(0)	(0)	(3,112,500)
災害看護支援資産	1,486,251	(0)	(1,486,251)	(0)	(0)
災害支援準備資金	3,500,000	(0)	(0)	(3,500,000)	(0)
合 計	9,544,217	(0)	(1,486,251)	(4,945,466)	(3,112,500)

4. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳
指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)	
内 容	金 額
元気な高齢者を増やす取組み 川嶋みどり	500,000
復興の力、コミュニティ再建のための中長期支援～はまっぺけらいん（集まっぺ）かだっぺけらいん（語っぺ）を合い言葉に～ 尾山とし子	400,000
(株)アトラス旅行、(株)学研メディカル秀潤社	400,000
宮城大学看護学生・教職員による南三陸町に在住する高齢者への健康支援活動の充実強化 佐々木久美子	300,000
第33回学術集会 （右黒メディカルシステム(株)より寄付)	20,000
合 計	1,620,000

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)			
科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	3,191,396	2,929,604	261,792
ソフトウェア	1,739,430	1,739,430	0
一括償却資産	210,056	104,511	105,545

法 人 名：公益社団法人 日本看護科学学会

附 属 明 細 書

1. 重要な固定資産の明細

(単位：円)					
区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
特定資産	選挙積立預金	1,362,252	200,254	117,040	1,445,466
	退職給付引当資産	2,184,239	928,261	0	3,112,500
	寄付積立資産	20,000	0	20,000	0
	災害看護支援資産	2,085,957	1,000,294	1,600,000	1,486,251
	災害支援準備資金	0	3,500,000	0	3,500,000
	特定資産計	5,652,448	5,628,809	1,737,040	9,544,217
その他固定資産	什器備品	313,145	0	51,353	261,792
	ソフトウェア	162,433	0	162,433	0
	一括償却資産	68,988	106,575	70,018	105,545
	電話加入権	72,030	0	0	72,030
	保証金	1,400,000	0	0	1,400,000
	長期前払費用	0	105,000		105,000
	その他固定資産計	2,016,596	211,575	283,804	1,944,367

2. 引当金の明細

(単位：円)					
科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	2, 184, 239	928, 261	0	0	3, 112, 500

財産目録

平成 26年 3月 31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金預金	手元現金 学術集会用小口現金	運転資金として 運転資金として	52,904 7,294
		普通預金 みずほ銀行本郷支店 三菱東京UFJ銀行本郷支店 三菱東京UFJ銀行本郷支店 ゆうちょ銀行 三菱東京UFJ銀行藤ヶ丘支店	運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として	79,668,723 3,252,215 5,860,361 2,615,620 451,249
	未収会費	平成25年度会費	会員会費未収金250名分	2,500,000
	未収金	㈱国際文献社 ㈱メテオ	学会誌・講演集販売代金の未収金H26.1～3月分 会誌著作権料H25.4～26.3月分	837,638 2,362
	たな卸資産	学会誌・学術講演集在庫	学会誌及び学術講演集	286,916
	前払費用	(有)プライムアソシエイツ ㈱損害保険ジャパン (有)富士見ビル(フジミビル) ウィリアム・ルイス・ホルツマー 弥生㈱ 春日土地㈱ 事務所賃借更新料	JJNS編集事務費H26.4.1～H26.12.31 火災保険料H26.4月分 事務所賃借料H26.4月分 JJNS編集長報酬H26.4～6月分 年間ネット更新料H26.4～27.3月分 管理業務の用に供している。	1,181,250 651 288,000 500,000 43,200 140,000
流動資産合計				97,688,383
(固定資産)	特定資産			
	選挙積立預金	普通預金 みずほ銀行本郷支店	管理業務の用に供している。	1,445,466
	退職給付引当資産	普通預金 三菱東京UFJ銀行本郷支店	退職金の引当資産である。	3,112,500
	災害看護支援資産	普通預金 三菱東京UFJ銀行本郷支店	指定正味財産を財源とする財産であり、災害看護支援事業のために寄付を受けて	1,486,251
	災害支援準備資金	普通預金 みずほ銀行本郷支店	平成26年度の災害支援費用に充てるための特定費用準備資金であり、災害看護支援事業で使用する予定の資金である。	3,500,000
	その他固定資産			
	什器備品	東京都文京区本郷3-37-3 オカムラ両開き書庫他5点	共用財産であり、公益目的事業の用に36.7%、収益事業の用に1.6%、管理業務の用に61.7%供している。公益目的事業の用に供している部分は、公益目的保有財	261,792
	一括償却資産	東京都文京区本郷3-37-3	管理業務の用に供している。	105,545
	電話加入権	東京都文京区本郷3-37-3	管理業務の用に供している。	72,030
	保証金	東京都文京区本郷3-37-3	管理業務の用に供している。	1,400,000
	長期前払費用	春日土地㈱ 事務所賃借更新料 280,000円×9/24ヵ月(H27.4.1～H27.12.31)	管理業務の用に供している。	105,000
固定資産合計				11,488,584
資産合計				109,176,967

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動負債)	前受会費	平成26年度・27年度会費	平成26年度正会員10,000円×1,718名 平成27年度正会員10,000円×2名 平成26年度賛助会員 50,000円 (3口)	17,350,000
	未払費用	日本郵便㈱	第34回学術集会案内パンフレット7,589通	511,471
		災害看護支援事業専門委員会委員	第1回及び2回委員会交通費	2,240
		看護倫理検討委員会委員	第2回委員会弁当代	11,025
			第2回委員会交通費	115,860
		国際活動推進委員会委員	第2回委員会交通費	47,660
		㈱国際文献社	和文誌アンケート集計作業	31,500
		厚生労働省年金局	社会保険料(H26.3月分)	131,670
		日本郵便㈱	郵便料金口座振替(H26.3月分)	5,114
	未払法人税等	東京都千代田都税事務所	平成25年度法人都民税	70,000
	未払消費税等	本郷税務署	平成25年度消費税及び地方消費税	471,300
	前受金	㈱メルシー他4件	第34回学術集会企業展示出展料	972,000
		㈱アトラス旅行、㈱学研メディカル秀潤社	第34回学術集会広告掲載料	162,000
		丸善㈱他2件	第34回学術集会書籍展示	324,000
	預り金	事務所員	給与源泉税・住民税	78,820
		中村コンサルティングオフィス、他1名	報酬源泉税	34,050
	仮受金	一般社団法人日本動脈硬化学会	年会費の誤入金分	10,000
流動負債合計				20,328,710
(固定負債)	退職給付引当金	事務所員8名分	平成26年3月末日要支給額	3,112,500
固定負債合計				3,112,500
負債合計				23,441,210
正味財産				85,735,757

平成 25 年度 収支計算書

平成25 年 4月 1日 から平成 26年 3月 31日 まで

(単位：円)

科 目	備考	平成25年度 予算額	平成25年度 決算額	差異
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入		1,000	676	324
特定資産受取利息収入		1,000	676	324
②会費収入		74,600,000	76,450,000	△ 1,850,000
正会員会費収入	※1	74,300,000	76,150,000	△ 1,850,000
賛助会員会費収入	※2	300,000	300,000	0
③学会誌収入（講演集含む）		2,163,000	3,142,227	△ 979,227
④寄付金収入（学術集会分含まず）	※3	1,500,000	1,000,294	499,706
⑤雑収入		2,003,000	3,783,034	△ 1,780,034
受取利息収入		3,000	5,102	△ 2,102
著作権料収入		100,000	310,856	△ 210,856
セミナー収益		1,900,000	3,460,000	△ 1,560,000
JANSセミナー（2回）		1,100,000	2,081,000	△ 981,000
JJNSセミナー		800,000	1,379,000	△ 579,000
その他雑収入		0	7,076	△ 7,076
⑥学術集会収入	※4	42,262,000	57,834,848	△ 15,572,848
学術集会参加費収入		31,280,000	41,798,000	△ 10,518,000
事前登録会員（1万円）		12,000,000	17,010,000	△ 5,010,000
事前登録非会員（1.2万円）		5,160,000	5,088,000	72,000
事前登録学部生（0.3万円）		180,000	12,000	168,000
当日登録会員（1.2万円）		9,600,000	12,072,000	△ 2,472,000
当日登録非会員（1.4万円）		4,340,000	7,406,000	△ 3,066,000
当日登録学部生（0.3万円）		0	210,000	△ 210,000
寄付金収入		1,000,000	2,009,000	△ 1,009,000
広告販売収入		9,342,000	13,221,848	△ 3,879,848
企業展示出展料		3,210,000	5,693,348	△ 2,483,348
広告掲載料		4,242,000	4,347,000	△ 105,000
スポンサードセミナー		1,890,000	2,677,500	△ 787,500
キャリア開発展示		0	504,000	△ 504,000
懇親会収入		640,000	806,000	△ 166,000
雑収入		0	0	0
事業活動収入合計（I a）		122,529,000	142,211,079	△ 19,682,079
2. 事業活動支出				
①事業費支出		81,958,950	80,646,978	1,311,972
学会誌発行費支出		29,531,000	27,000,987	2,530,013
和文誌編集・印刷費支出	※5	10,350,000	6,962,409	3,387,591
和文誌発送費支出		2,816,000	2,034,959	781,041
英文誌編集・印刷費支出	※6	15,020,000	16,729,050	△ 1,709,050
英文誌発送費支出		1,345,000	1,274,569	70,431
編集活動費支出		2,393,000	2,359,636	33,364
和文誌編集委員会費支出		640,000	667,077	△ 27,077
英文誌編集委員会費支出		1,753,000	1,692,559	60,441
看護学術振興費支出		4,973,000	3,731,310	1,241,690
看護学学術用語検討委員会費支出	※7	576,000	824,580	△ 248,580
国際活動推進委員会費支出	※8	975,000	642,980	332,020
看護倫理検討委員会費支出		500,000	388,002	111,998
研究・学術情報委員会費支出	※9	511,000	155,880	355,120
表彰論文選考委員会費支出	※10	311,000	19,890	291,110
災害看護支援事業委員会費支出		100,000	53,775	46,225
学術振興事業検討委員会費支出	※11	500,000	46,203	453,797
災害看護支援事業助成金支出	※12	1,500,000	1,600,000	△ 100,000
研究学術活動費支出		1,201,000	1,427,117	△ 226,117
受賞論文表彰費支出	※13	80,000	123,513	△ 43,513
研究倫理審査委員会費支出		121,000	0	121,000
セミナー等開催費支出	※14	1,000,000	1,303,604	△ 303,604
社会的活動費支出		1,256,500	651,878	604,622
社会貢献委員会費支出	※15	1,256,500	651,878	604,622
総務費支出		1,102,000	512,400	589,600
総務委員会費支出		370,000	209,970	160,030
広報委員会費支出	※16	732,000	302,430	429,570

科 目	備考	平成25年度 予算額	平成25年度 決算額	差異
学術集会費支出		41,502,450	44,963,650	△ 3,461,200
当年度開催学術集会		39,171,700	42,845,951	△ 3,674,251
会場費支出		19,829,010	18,809,361	1,019,649
会議費支出		408,660	747,839	△ 339,179
旅費交通費支出		1,146,000	913,848	232,152
消耗品費支出		60,000	80,414	△ 20,414
通信運搬費支出（プログラム送料含む）		1,177,150	1,316,688	△ 139,538
印刷製本費支出（プログラム印刷含む）	※17	7,473,640	8,825,785	△ 1,352,145
委託費支出	※18	5,115,370	9,025,061	△ 3,909,691
人件費支出		516,000	161,500	354,500
諸謝金支出	※19	290,000	840,378	△ 550,378
保険料支出		0	18,750	△ 18,750
渉外費支出		0	0	0
雑費支出		2,110,470	1,108,740	1,001,730
懇親会運営費支出		1,045,400	997,587	47,813
次年度開催学術集会（準備期間）		2,330,750	2,117,699	213,051
会場費支出		0	0	0
会議費支出		49,500	12,926	36,574
旅費交通費支出		490,000	193,340	296,660
消耗品費支出		10,000	2,625	7,375
通信運搬費支出（パンフレット送料含む）		725,000	799,496	△ 74,496
印刷製本費支出（パンフレット印刷含む）		906,250	593,775	312,475
委託費支出		150,000	515,432	△ 365,432
人件費支出		0	0	0
諸謝金支出		0	0	0
貸貸料支出		0	0	0
渉外費支出		0	0	0
雑費支出		0	105	△ 105
懇親会運営費支出		0	0	0
②管理費支出		40,987,000	40,289,240	697,760
給料手当支出		15,550,000	15,683,410	△ 133,410
通勤費支出		1,407,000	1,502,810	△ 95,810
退職給付支出		300,000	0	300,000
福利厚生費支出		1,640,000	1,823,768	△ 183,768
会議費支出（学会総会費）		500,000	713,182	△ 213,182
会議費支出（社員総会費）		2,660,000	2,492,095	167,905
会議費支出（理事会費）		2,338,000	1,813,730	524,270
委託費支出		4,134,000	4,035,953	98,047
渉外費支出		30,000	10,290	19,710
旅費交通費支出		280,000	256,420	23,580
通信運搬費支出		2,050,000	2,151,995	△ 101,995
消耗品費支出		1,000,000	876,208	123,792
印刷製本費支出		120,000	95,812	24,188
慶弔費支出		50,000	0	50,000
光熱水料費支出		660,000	721,719	△ 61,719
賃借料支出		4,900,000	4,317,152	582,848
保険料支出		8,000	7,754	246
諸謝金支出		50,000	0	50,000
租税公課支出	※20	570,000	844,997	△ 274,997
負担金支出		280,000	280,000	0
修繕費支出	※21	50,000	152,250	△ 102,250
選挙費用支出		150,000	117,040	32,960
資格喪失者会費支出	※22	1,000,000	970,000	30,000
雑費支出		1,260,000	1,422,655	△ 162,655
事業活動支出合計（I b）		122,945,950	120,936,218	2,009,732
事業活動収支差額（I a）-（I b）		△ 416,950	21,274,861	△ 21,691,811

科 目	備考	平成25年度 予算額	平成25年度 決算額	差異
Ⅱ 投資活動収支の部（資金の内部移動）				
1. 投資活動収入(各種立金を取り崩し、それを資金として使用する)				
選挙積立取崩(選挙費用として使用)		150,000	117,040	32,960
退職給付引当資産取崩		300,000	0	300,000
寄付資産取崩	※23	0	20,000	△ 20,000
災害看護支援資産取崩（災害看護支援助成金へ）		1,500,000	1,600,000	△ 100,000
投資活動収入合計（Ⅱa）		1,950,000	1,737,040	212,960
2. 投資活動支出（目的のある積立をするために、事業活動の資金を各種立預金に振り替える）				
選挙積立預金		200,000	200,254	△ 254
退職給付引当金積立		600,000	928,261	△ 328,261
災害看護支援資産事業積立		1,500,000	1,000,294	499,706
災害支援準備資金取得積立	※24	0	3,500,000	△ 3,500,000
什器備品購入支出		100,000	0	100,000
一括償却資産購入支出		0	106,575	△ 106,575
事務所更新料（長期前払費用）		105,000	105,000	0
投資活動支出合計（Ⅱb）		2,505,000	5,840,384	△ 3,335,384
投資活動収支差額（Ⅱa）-（Ⅱb）		△ 555,000	△ 4,103,344	3,548,344
Ⅲ 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入合計（Ⅲa）		0	0	0
2. 財務活動支出				
財務活動支出合計（Ⅲb）		0	0	0
財務活動収支差額（Ⅲa）-（Ⅲb）		0	0	0
Ⅳ 予備費支出		3,000,000	0	3,000,000
当期収支差額		△ 3,971,950	17,171,517	
前期繰越収支差額		59,901,240	59,901,240	
次期繰越収支差額		55,929,290	77,072,757	

- ※1 平成25年4月1日現在の会員登録数6713名（請求人数）、平成25年度中の新入会・再入会者が902名。
- ※2 ㈱日本看護協会出版会2口、㈱医学書院・㈱南江堂・㈱へるす出版・ヌーヴェルヒロカワ各1口。
- ※3 災害看護支援事業寄付金＋受取利息
- ※4 参加人数が予算を大幅に上回った。（2800人→3734人）
- ※5 2014年1月よりオンラインジャーナルに完全移行したため、紙媒体の発行回数が減少した。
- ※6 編集事務費の超過分を40編と見込んでいたところ、196編あったため予算より156編超過した。
- ※7 予算立案時（前委員会）より遠方の委員が増加したため、旅費交通費が予算を上回った。
- ※8 異文化データベースの更新を検討したが、今期中に完結しなかったため予算を下回った。
- ※9 委員会で予算化したセミナーに係る費用を「セミナー等開催費」から支出したため予算を下回った。
- ※10 WEB会議の利用と、遠方の委員が少なかったことにより交通費が予算を下回った。
- ※11 委員会で予算化した会場費などを「セミナー等開催費」から支出したため予算を下回った
- ※12 別紙《災害看護支援事業収支報告書》を参照のこと。
- ※13 表彰論文数が多かったため。
- ※14 会場費が予算を上回ったため。
- ※15 予算立案時（前委員会）より遠方の委員が減少したため、旅費交通費が予算を下回った。
- ※16 メールでの会議も取り入れたため、旅費交通費の支出が予算を下回った。
- ※17 事前参加登録者が想定人数を上回ったため、講演集、プログラム集の印刷部数を増やした。
- ※18 参加人数が想定を上回ったため、当日の業者スタッフを増員した。
- ※19 「会計に関する申し合わせ事項」の改訂により、会員である講師にも謝金を支払えるようになったため。
- ※20 収益事業（学会誌販売収入、著作権収入、学術集会に伴う広告販売収入）に関わる法人税および法人事業税は0円、法人住民税7万円（均等割のみ）
消費税課税売上高（学術集會非会員参加費収入、広告販売収入、学会誌販売収入など）から簡易課税方式にて計算した消費税771,500円
印紙税3,484円、利子源泉税13円
- ※21 印刷機の使用期間が、開始から3年を経過したため保守契約を結んだ。
- ※22 平成24年4月1日付の資格喪失者のうち、平成25年3月31日までに未納会費を納入し再入会したもの以外は損失分として支出に計上される。
- ※23 平成24年度（開催前年）中に受領した第33回学術集会への寄付金を平成25年度（開催年度）に活動資金として使用した。
- ※24 平成26年度の災害支援費用に充てるための特定費用準備資金であり、災害看護支援事業で使用する予定の資金である。

災害看護支援事業収支報告書

2014年3月31日 現在

(単位:円)

項 目		平成25(2013)年度
前年度より繰越		2,085,957
収入合計		1,000,294
①災害看護支援寄附金収入		1,000,150
《内訳》 団体	4件	475,491
個人	3名	220,000
ワンコイン募金(JANS33)		304,659
②預金利息		144
支出合計		1,600,000
災害看護支援助成支出	4件	1,600,000
単年度残高		-599,706
災害支援準備資金 ※1		3,500,000
災害看護支援口(積立金)口座残高 (2014年3月31日現在) ※2		4,986,251
《内訳》 三菱東京UFJ 銀行		1,486,251
ゆうちょ銀行		0
みずほ銀行		3,500,000

※1 特定費用準備資金。平成26年度の災害看護支援事業で使用する予定の準備資金。

※2 「特定資産」として一般正味財産とは別途の財産管理(法人化以前の「特別会計」と同様の扱い)をしている。

《助成支出内訳》 平成25(2013)年度

代表者名	事業名	助成金額
川嶋 みどり	元気な高齢者を増やす取組み	500,000
渋谷 えみ	東日本大震災および福島原発事故により茨城県に避難している母子の支援活動	400,000
尾山 とし子	復興の力、コミュニティ再建のための中長期支援～はまってけらいん(集まって)かだってけらいん(語って)を合い言葉に～	400,000
佐々木 久美子	宮城大学看護学生・教職員による南三陸町に在住する高齢者への健康支援活動の充実強化	300,000
		4件 1,600,000

監 査 報 告 書

公益社団法人日本看護科学学会

理事長 田村 やよひ 様

平成 25 年(2013 年)4 月 1 日から平成 26 年(2014 年)3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

1. 監査の方法及びその内容

私ども監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表(貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記及びこれらの附属明細書、財産目録)および収支計算書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

(2) 財務諸表の監査結果

財務諸表は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成 26 年(2014 年)4 月 27 日

公益社団法人日本看護科学学会

監 事 小 島 操 子 ⑩

監 事 近 藤 潤 子 ⑩

独立監査人の監査報告書

平成26年5月12日

公益社団法人日本看護科学学会
理事長 田村 やよひ 殿

牧真之介公認会計士事務所

公認会計士 牧 真 之 介 ㊞

<財務諸表監査>

私は、公益社団法人日本看護科学学会の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの平成25年度の貸借対照表及び損益計算書(公益認定等ガイドラインⅠ-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。)並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表(以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。)について監査を行った。

財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽の表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<財産目録に対する意見>

私は、公益社団法人日本看護科学学会の平成26年3月31日現在の平成25年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監査人の責任

私の責任は、財産目録等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

利害関係

公益社団法人日本看護科学学会と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

公益社団法人 日本看護科学学会 定款施行細則 変更案

【変更理由】

公益目的事業を活発化しつつ、安定した財務状況を保つために、毎年度の理事会で公益目的事業に配分する会費割合を見直せるようにするため。

また、この平成26年度会費より適用するために、平成26年4月1日改正とした。

現行	変更案
(会費) 第2条 本会の正会員の会費は、年額10,000円とする。 2 本会の賛助会員の会費は、年額1口50,000円とする。 3 正会員の会費の40%を公益目的事業に充当し、60%を法人運営管理費用に充てるものとする。	(会費) 第2条 本会の正会員の会費は、年額10,000円とする。 2 本会の賛助会員の会費は、年額1口50,000円とする。 3 正会員の会費の 30%以上 を公益目的事業に充当し、 70%以内 を法人運営管理費用に充てるものとし、 その配分は事業年度ごとに理事会の決議により定めるものとする。 附 則 この細則の改正は、平成26年4月1日から施行する。

平成25年度正味財産計算書内訳表（会費配分＝40％：60％ 現行）

平成25年4月1日から平成26年3月31日

公益社団法人 日本看護科学学会

科目	公益目的事業							収益事業等			法人会計	合計
	公1							収益1	他1			
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	災害支援事業	共通	計	広告販売	連携事業	計		
I 一般正味財産増減の部												
1. 経常増減の部												
(1) 経常収益												
受取会費												
正会員受取会費						30,460,000	30,460,000				45,690,000	76,150,000
賛助会員受取会費						300,000	300,000					300,000
事業収益		3,142,227	41,798,000				44,940,227	13,221,848		13,221,848		58,162,075
寄付金・助成金			2,029,000		1,600,000		3,629,000					3,629,000
雑収益	2,084,572	1,689,856					3,774,428				815,282	4,589,710
経常収益計	2,084,572	4,832,083	43,827,000		1,600,000	30,760,000	83,103,655	13,221,848		13,221,848	46,505,282	142,830,785
(2) 経常費用												
① 事業費	9,580,876	32,301,979	46,502,114	944,627	1,600,000	19,619	90,949,215	1,082,556	336,502	1,419,058		92,368,273
② 管理費											29,695,630	29,695,630
経常費用計	9,580,876	32,301,979	46,502,114	944,627	1,600,000	19,619	90,949,215	1,082,556	336,502	1,419,058	29,695,630	122,063,903
当期経常増減額	△ 7,496,304	△ 27,469,896	△ 2,675,114	△ 944,627		30,740,381	△ 7,845,560	12,139,292	△ 336,502	11,802,790	16,809,652	20,766,882
2. 経常増減の部												
(1) 経常外収益												
経常外収益計		79,119					79,119					79,119
(2) 経常外費用												
経常外費用計						55	55	1	2	3	93	151
当期経常外増減額		79,119				△ 55	79,064	△ 1	△ 2	△ 3	△ 93	78,968
他会計振替額						7,865,179	7,865,179	△ 7,865,179	0	△ 7,865,179		
税引前当期一般正味財産増減額	△ 7,496,304	△ 27,390,777	△ 2,675,114	△ 944,627		38,605,505	98,683	4,274,112	△ 336,504	3,937,608	16,809,559	20,845,850
法人税、住民税及び事業税								883,000		883,000		883,000
当期一般正味財産増減額	△ 7,496,304	△ 27,390,777	△ 2,675,114	△ 944,627		38,605,505	98,683	4,274,112	△ 336,504	3,937,608	16,809,559	19,962,850

平成25年度正味財産計算書内訳表（会費配分＝30％：70％の場合）

平成25年4月1日から平成26年3月31日

公益社団法人 日本看護科学学会

科目	公益目的事業							収益事業等			法人会計	合計
	公1							収益1	他1			
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	災害支援事業	共通	計	広告販売	連携事業	計		
I 一般正味財産増減の部												
1. 経常増減の部												
(1) 経常収益												
受取会費												
正会員受取会費						22,845,000	22,845,000				53,305,000	76,150,000
賛助会員受取会費						300,000	300,000					300,000
事業収益		3,142,227	41,798,000				44,940,227	13,221,848		13,221,848		58,162,075
寄付金・助成金			2,029,000		1,600,000		3,629,000					3,629,000
雑収益	2,084,572	1,689,856					3,774,428				815,282	4,589,710
経常収益計	2,084,572	4,832,083	43,827,000		1,600,000	23,145,000	75,488,655	13,221,848		13,221,848	54,120,282	142,830,785
(2) 経常費用												
① 事業費	9,580,876	32,301,979	46,502,114	944,627	1,600,000	19,619	90,949,215	1,082,556	336,502	1,419,058		92,368,273
② 管理費											29,695,630	29,695,630
経常費用計	9,580,876	32,301,979	46,502,114	944,627		19,619	90,949,215	1,082,556	336,502	1,419,058	29,695,630	122,063,903
当期経常増減額	△ 7,496,304	△ 27,469,896	△ 2,675,114	△ 944,627		23,125,381	△ 15,460,560	12,139,292	△ 336,502	11,802,790	24,424,652	20,766,882
2. 経常増減の部												
(1) 経常外収益												
経常外収益計		79,119					79,119					79,119
(2) 経常外費用												
経常外費用計						55	55	1	2	3	93	151
当期経常外増減額		79,119				△ 55	79,064	△ 1	△ 2	△ 3	△ 93	78,968
他会計振替額						11,791,258	11,791,258	△ 11,791,258	0	△ 11,791,258		
税引前当期一般正味財産増減額	△ 7,496,304	△ 27,390,777	△ 2,675,114	△ 944,627		34,916,584	△ 3,590,238	348,033	△ 336,504	11,529	24,424,559	20,845,850
法人税、住民税及び事業税								70,000		70,000		70,000
当期一般正味財産増減額	△ 7,496,304	△ 27,390,777	△ 2,675,114	△ 944,627		34,916,584	△ 3,590,238	348,033	△ 336,504	11,529	24,424,559	20,775,850

名誉会員の承認について

名誉会員についての定款上の規程

第 12 条 名誉会員は、看護学の発展に多大の寄与をした者の中から、理事会及び社員総会の承認を得たものとする。

2 名誉会員は、社員総会に出席し意見を述べることができる。

3 第 1 項の承認について、理事長は、学会総会に報告しなければならない。

第 14 条 会員は、社員総会で定める会費を納めなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、名誉会員は、会費の納入を要しない。

名誉会員推薦についての理事会申し合わせ事項

1) 「看護学の発展に多大の寄与をした」ことの解釈・・・次のいずれかに該当すること。

① JANS の学術集会会長、国際学術集会会長を務めた。

② JANS の理事長、もしくは理事を通算 3 期以上務めた。

③ ①、②に相当の働きをしたと理事会が認めた。

④ その他・・・看護学の発展に格段の貢献をしたもの。

2) 本人の同意があること

平成 26 年 6 月社員総会で名誉会員に推薦する会員 （了承を得て履歴等の情報を記載しております）

	中西 睦子 氏
略 歴	掲載省略
会 員 歴	1981 年 7 月 25 日～2014 年 3 月 31 日 （通算 33 年）
学術集会会長歴	第 17 回日本看護科学学会学術集会会長（1997 年）
役 員 代 議 員 歴	理 事 長 1999 年～2001 年 理 事 1990 年～1992 年、1996 年～1998 年 監 事 2005 年～2007 年、2007 年～2011 年 評 議 員 1987 年～1989 年、1990 年～1992 年、1996 年～1998 年、 1999 年～2001 年、2005 年～2007 年 代 議 員 2007 年～2011 年